日本におけるがん看護研究の優先性

- 2022 年日本がん看護学会会員による調査 -

＜報告書＞

令和 5 年 2 月　（令和 6 年 2 月修正版）

一般社団法人日本がん看護学会　将来構想推進委員会

藤田佐和，林　直子，雄西智恵美，川崎優子、遠藤久美

がん看護 Research Priority 調査ワーキンググループ

鈴木久美、小笠美春，内田恵，入澤裕子，田代真理，沖村愛子

一般社団法人日本がん看護学会　理事長

渡邉眞理

目　次

Ⅰ．研究の背景と意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ．研究目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅲ．研究方法

1．調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2．調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

3．調査項目の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

4．調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

5．データ分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

6．倫理的配慮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ．結果

1．対象者の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2．がん看護研究およびがん看護実践における重要課題・・・・・・・・・3

3．がん患者の苦痛症状と看護師にとってマネジメント

困難な症状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4．その他の重要ながん看護研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅴ．まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅵ．表 1～20　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

引用文献

Ⅰ．研究の背景と意義

日本のがん罹患率は上昇の一途をたどっており、2 人に 1 人ががんになる時代となった。本邦ではがん対策の充実を目指して 2007 年にがん対策基本法が施行され、それ以降「がんに関する研究の推進と研究成果の普及」「がん医療の均てん化の促進」「がん患者の意向の尊重」を基本理念としたがん対策が、総合的かつ計画的に推進されてきた。がんの早期発見のためのがん検診の勧奨、集学的治療、多種多様な臨床試験の実施、診断期からの緩和ケアの推奨、在宅緩和ケアの推進に加え、2016 年にがん対策基本法の一部改正が行われ、稀少がんや難治性がんの研究促進、就労支援およびがん教育の推進について言及された。これに基づき、2018 年第 3 期がん対策推進基本計画では、がんゲノム医療，免疫療法，支持療法，難治性がん対策および AYA 世代・高齢者のがん対策などが新たな分野として盛り込まれ、がん研究は予防・医療・共生の三本柱を支えるものの１つとして位置付けられている。

このような動向の元、日本がん看護学会は、がん患者や家族を取り巻くがん医療の変化と、がん患者の QOL の向上をめざしたより質の高いケアを提供するために、がん看護における教育・研究に取り組み、がん看護実践の向上に貢献してきた。その一環として本学会では、がん看護の専門性を高め研究の活性化をはかるために、日本におけるがん看護研究の優先性について 1992 年[1) 2)] と 2016 年[3)] に調査を実施したが、それ以降実施されていない。そこで、近年の医療の変化を反映したがん看護研究の優先性を明らかにする調査を今回実施することは、研究の課題の明確化や今後の研究の戦略的な取り組みへとつながり、がん対策の推進や診療報酬改定に反映できる基礎資料となると考える。

諸外国でも自国のがん看護研究の優先性を明らかにする調査がなされている。米国の Oncology Nursing Society（以下、ONS）では、がん患者や家族に対する臨床成果を改善するために、研究の優先性について調査を行い、その調査結果を研究課題の指針や研究の戦略的取り組みに用いてきた[4) 5) 6)]。しかし、ONS 会員の回答率が 11%と低く、調査結果から明確な研究優先順位が得られなかったことなどを理由に、2013 年を最後に、会員を対象とした Priority 調査は中止されている[7)]。2016 年に本学会が行った調査[3)]の回答率は 13.5%とやはり低値であったことから、今回行う調査の回答率ならびに回答者の属性から、母集団(全学会員)の意見を反映したものか否かの検討も必要と考える。2016 年に実施した調査結果と比較して、研究の動向を考察すると共に、本調査のあり方について今後検討する際の基礎資料とする。

Ⅱ．研究目的

本研究は、日本のがん看護分野における研究課題の明確化、および研究の方向性を提示するため、がん看護研究の優先性を明らかにすることを目的とした。

Ⅲ．研究方法

1．調査対象

日本がん看護学会の会員のうち、2022 年 3 月末日の時点でメールアドレスをメーリングリストに登録

している正会員 5014 人を対象とした。

2. 調査期間

調査は、2022 年 10 月 3 日～10 月 31 日の 1 か月間で行った。

3. 調査項目の作成

2016 年の本学会による研究の優先性に関する調査で用いた質問項目を参考に、①日本がん看護学会学会誌、日本がん看護学会学術集会の抄録集の研究テーマ、②がん看護専門看護師の実践家の視点、③ONS の 2014 年以降の Priority 調査ならびに ONS が公示する Agenda、の 3 側面から研究課題の領域と研究課題の項目を検討した。研究課題の領域は、①がん全般の症状（がん治療関連の副作用を含む）、②がん治療による晩期の影響、③心理社会的側面、④意思決定、⑤看護介入・ケア方法の開発および評価、⑥長期サバイバーシップ、⑦エンドオブライフ、⑧家族・介護者、⑨一般人（がんと診断されていない人）のヘルスプロモーション、⑩ヘルスケアシステム、⑪がん看護に関わる看護師、⑫その他の 12 領域とし、項目数は 106 項目となった。【改行】

これらの研究課題に対する質問は、a がん患者の看護実践における重要度、b がん看護研究における重要度、c 患者にとって最も苦痛な症状、d 看護師にとってマネジメントが最も困難な症状とした。回答は、a がん患者の看護実践における重要度および b がん看護研究における重要度に関しては、「かなり重要である」の 3 から「重要でない」の 0 までとし、「わからない」の選択肢を含めた。c 患者にとって最も苦痛な症状および d 看護師にとってマネジメントが最も困難な症状は、上位 3 位までを選択するようにした。

対象の背景として、①年齢、②性別、③臨床経験年数、④がん患者の看護に関わっている経験年数、⑤所属先（教育・研究機関、病院、ステーション等）、⑥職位、⑦教育背景、⑧がん看護領域の認定資格の有無、⑨代議員か否か、⑩過去の研究の優先性の調査への回答の有無などの項目を設定した。以上より、質問項目は合計 116 項目であった。

尚、質問項目は、がん看護 Research Priority 調査ワーキンググループで作成、検討した後、上部委員会の将来構想推進委員会に報告、当該委員会で確認・検討した後、日本がん看護学会理事会に提出、理事会の承認を得て最終決定とした。

4. 調査方法

本調査は、Web による調査とした。Web 調査会社に調査専用サイトの作成を依頼し、日本がん看護学会事務局よりメールアドレスを登録している学会員宛てに調査協力の依頼メールを配信し、調査期間内に指定のウェブサイト（資料 1）に個別にアクセスし、調査協力依頼文（資料 2）を読んだうえで回答するよう依頼した。回答率を上げるため、調査期間内に 3 回のリマインドメールを送信した。

5. データ分析

得られたデータについて、質問項目ごとに記述統計を行った。質問項目ごとに中央値および平均値を算出し、得点の高いものから順に上位 20 位までの研究課題の項目を抽出した。「患者にとって最も苦痛な症状」と「看護師にとってマネジメントが最も困難な症状」については、項目ごとに回答者の割合を算出し、回答率（選択率）の高い順にリストアップした。また、年齢、がん看護の臨床経験年数、職場、

教育背景ごとの回答状況を比較検討した。2016 年に実施した同調査結果と比較し、２つの調査結果の相違を検討した。また、回答者が母集団を反映しているか、回答者の属性について学会員全体と比較した。

6. 倫理的配慮

本調査にあたり日本がん看護学会倫理委員会の承認（2022-02）を得て実施した。対象には、研究の趣旨、目的、方法、参加の任意性、利益・不利益、個人情報保護、データ管理などについて文書で説明し、web 調査画面での回答の送信をもって同意を得たものとした。

Ⅳ. 結果

1. 対象者の背景　【表１】

回答数は 571 件で回答率は 11.4%だった。平均年齢 48.3 歳（SD=7.48）であり、臨床経験年数 21.9 年（SD=8.83）、がん看護臨床経験年数 19.1 年（SD=8.12）だった。表 1 に示す通り、職場は病院・訪問看護ステーション等の臨床の場が 74.4%を占め、教育・研究機関が 22.6%だった。教育背景は大学院修了者（博士前期・後期）が 56.2%と半数を超え、専門学校卒業者が 28.5%、大学卒業者が 8.6%だった。認定資格は、有している者が約 7 割を占め、そのうち認定看護師が 60.7%、専門看護師が 42.1%であった。

前回調査での対象者の背景と比較すると、平均年齢は 45.8 歳から 2.5 歳上がり、臨床経験年数（前回 19.6 年）、がん看護臨床経験年数（同 16.0 年）は前回より長くなった。職場の割合は教育・研究機関の割合が微減し、医療機関はほぼ同じ、訪問看護ステーションは前回 0.4%から今回 2.6%と増加した。教育背景は専門学校卒業者の割合のみ減少し、他は増加した。特に博士前期課程・修士課程修了者の割合は前回 31.6%から今回 41.3%と最も増加した。前回調査では、認定資格を有している者は 6 割弱、そのうち認定看護師が 70.7%、専門看護師が 25.7%であったが、今回は専門看護師を有する者の割合が顕著に増加した。

2. がん看護研究およびがん看護実践における重要課題

1)全体　【表２】

がん看護研究およびがん看護実践における重要課題について、上位 20 位を表 2 に示す。

看護研究における重要課題の上位項目は、「治療選択に関する意思決定」「意思決定支援」「倫理的課題／倫理的判断」「がんの親をもつ子どもの問題・対応」「在宅療養を可能にするための支援」「療養の場の移行に関する意思決定」、「アドバンスケアプランニング」の順であり、意思決定に関する課題であった。

2016 年の調査結果と比較して、「意思決定支援」（「看護介入の開発：意思決定」前回 3 位→今回 1 位、以下同様）と「倫理的課題／倫理的判断」（1 位→3 位）は依然として重要と考えられる傾向にあった。前回よりも重要と考えられる傾向が顕著に増えた課題としては、「治療選択に関する意思決定」（「積極的治療の意思決定」20 位→1 位）、「がんの親をもつ子どもの問題・対応」（12 位→4 位）、「在宅療養を可能にするための支援」（「在宅療養を促す支援」20 位圏外→5 位）、「アドバンスケアプランニング」（15 位→5 位）があげられた。その中でも「治療選択に関する意思決定」は平均値が前回の 2.65 から 2.80 へと今回調査の中では最も増加した。一方、順位が特に下がったのは、「緩和ケアに関する意思決定」（「緩和ケアの意思決定」4 位→13 位）、「倦怠感」（7 位→20 位）、「息切れ／呼吸困難」（11 位→20 位）、

「家族のがんへの適応」(15 位→25 位※)、「心理的苦悩」(不安、抑うつ等)(8 位→28 位※)であった。

看護実践の上位にあげられた項目は、「意思決定支援」、「治療選択に関する意思決定」「在宅療養を可能にするための支援」「アドバンスケアプランニング」「症状マネジメント」「療養の場の移行に関する意思決定」「倫理的課題／倫理的判断」の順となっており、看護研究における重要課題と同様に意思決定に関する課題が上位を占めていた。

前回の調査結果との比較では、継続して重要と考えられているのは「意思決定支援」(「看護介入の開発：意思決定」4 位→1 位)で、重要度が顕著に上がったのは、「治療選択に関する意思決定」(「積極的治療の意思決定」20 位圏外→2 位)、「在宅療養を可能にするための支援」(「在宅療養を促す支援」20 位圏外→3 位)、「アドバンスケアプランニング」(20 位圏外→4 位)の 3 項目であった。重要度が特に下がったのは、「痛み」(1 位→9 位)、「QOL」(4 位→12 位)、「息切れ／呼吸困難」(2 位→13 位)、「倦怠感」(4 位→15 位)、「心理的苦悩(不安、抑うつ等)」(8 位→23 位※)、「家族のがんへの適応」(15 位→29 位※)、「末梢神経障害」(15 位→29 位※)だった。この看護実践における研究課題の重要度の平均値は、各項目とも前回より減少または不変であった。　　※は 20 位以下のため表 2 での掲載なし。

2)対象の背景別による比較　【表 3】～【表 10】

<u>職場別</u>の結果は表 3・4 に示す通りであり、看護研究および看護実践の重要課題において、教育・研究機関の対象者よりも臨床現場の対象者の方が、全体的に平均値が高かった。

看護研究の重要課題として 20 位以内に共通して入っていた項目は、「在宅療養を可能にするための支援」、「がんの親を持つ子供の問題・対応」「症状マネジメント」「意思決定支援」「アドバンスケアプランニング」「痛み」などであった。職場別で比較すると、教育・研究機関において、「情報共有・情報システム(ICT、テレナーシング、遠隔医療含む)」と「小児、AYA 世代にあるがん患者(新規)」「就労支援」、「子を持つがん患者(新規)」の 4 つが他の職場では 20 位以内に入っておらず、この職場に属する回答者に特徴的な項目であった。病院で特徴的な項目は「看護師のコミュニケーション」、「生命維持治療(輸液、経管栄養、心肺蘇生等)の意思決定」であった。訪問看護ステーションでは「訪問看護(新規)」「家族の機能」「がん悪液質」「経済的問題」が他では上位にない項目であった。

前回調査と比較すると、教育・研究機関では「在宅療養を可能にするための支援」が 20 位圏外から 1 位と著しく上がっていた。前回は“臨床現場”と一括りにしていたが今回は“病院(診療所含む)”と“訪問看護ステーション”と分けて調査した。今回の回答者が最も多く(N＝410)属する職場となった病院では「治療選択に関する意思決定」が最も平均値が高く、これは前回の“臨床現場”では 20 位圏外の項目であった。訪問看護ステーションでは前回 20 位圏外の項目から「在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム」と今回新規に追加された項目(以下、新規)「訪問看護」が 1 位となった。

看護実践の重要課題として共通で上位に入った項目は、「セルフマネジメント／セルフケア」、「在宅療養を可能にするための支援」、「療養の場の移行に関する意思決定」「治療選択に関する意思決定」「意思決定支援」「アドバンスケアプランニング」などであった。職場別の比較では、教育・研究機関で 20 位以内であった「末梢神経障害」「希望」が他の職場では 20 位圏外であった。病院では「看護師のコミュニケーション」「看護師のストレスマネジメント」の 2 項目が、訪問看護ステーションでは、「生命維持治療(輸液、経管栄養、心肺蘇生等)の意思決定」「訪問看護」「栄養状態の変化(体重減少／増加など)」「がん悪液質(新規)」「セルフエフィカシー」「心理社会／心理教育」「リハビリテーション」の 7 項目が 20 位以内に入っていることが特徴的であった。

前回調査との比較としては、教育・研究機関では「在宅療養を可能にするための支援」（20 位圏外→1 位）、「セルフマネジメント／セルフケア」（12 位→1 位）が特に上がっている。病院と訪問看護ステーション共に（前回の“臨床現場”との比較）、「治療選択に関する意思決定」が前回 20 位圏外から上位になった。

教育背景別の結果は表 5・6 に示す通りであり、看護研究および看護実践の重要課題において、博士・修士修了者よりも大学・短大や専門学校卒業者の方が、全体的に平均値が高かった。

看護研究の重要課題について、博士修了者は「倫理的課題／倫理的判断」が 1 位であったのに対し、他では「意思決定支援」が 1 位あるいは 3 位であった。また博士修了者は、「治療選択に関する意思決定」の平均値が 11 位であるのに対し、他は 1 位あるいは 2 位であった。さらに「情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）」と「認知症のあるがん患者」は博士修了者のみ上位であった。新規項目である「小児、AYA 世代にあるがん患者」は博士修了者と短大卒業者のみ 20 位までに入った。

前回調査と比較すると全ての教育背景において、「在宅療養を可能にするための支援」が 20 位圏外から上位に入り、特に博士修了者では 2 位に上がった。また、前回、大学卒業者以外では「治療選択に関する意思決定（前回「積極的治療の意思決定」）」が 20 位圏外であったが、今回は全ての教育背景において上記の通り上位に入った。20 位圏外から今回上位に入った項目としては他に、博士修了者では「アドバンスケアプランニング」、修士修了者では「がんの親をもつ子どもの問題・対応」、大学卒業者では「アドバンスケアプランニング」「セルフマネジメント／セルフケア」「症状マネジメント」、短期大学卒業者では「アドバンスケアプランニング」「家族ケア（家族の身体・心理・社会的ケア）」「がんの親をもつ子どもの問題・対応」、専門学校卒業者については「在宅療養を可能にするための支援」「QOL」があった。

看護実践の重要課題は、「在宅療養を可能にするための支援」と「意思決定支援」「症状マネジメント」「療養の場の移行に関する意思決定」が共通して上位に位置づいていた。一方、「治療選択に関する意思決定」については、博士修了者では平均値が 10 位であるのに対し、他の群では 1 位あるいは 5 位に入っていた。「痛み」は、修士修了者以外は 4-7 位と比較的上位に入っていたが、修士修了者では 18 位であった。

前回調査では、「在宅療養を可能にするための支援（前回「在宅療養を促す支援」）」は 20 位以内に入らなかったが今回調査では上記の通り全ての教育背景において上位となった。「治療選択に関する意思決定（前回「積極的治療の意思決定」）」は、前回は修士修了者と大学卒業者のみ 20 位以内に入ったが、今回は上記の通りとなった。「アドバンスケアプランニング」は前回は大学卒業者と専門学校卒業者のみ 20 位以内に入ったが、今回は全ての教育背景において上位に入った。

がん看護臨床経験年数別の結果は表 7･8 に示す通りであり、看護研究の重要課題において、5 年以上 10 年未満の対象者の平均値が全体的に高く、5 年未満の対象者の平均値は低かった。

看護研究の重要課題では、「治療選択に関する意思決定」がいずれにおいても 1 位あるいは 2 位であり、「意思決定支援」もすべての群で 3 位までに入っていた。また「療養の場の移行に関する意思決定」「がんの親を持つ子どもの問題・対応」「症状マネジメント」も共通して 10 位までに入っていた。

前回と比較すると、「アドバンスケアプランニング」は 10 年以上 20 年未満で 14 位に入ったのみであったが、今回は全ての経験年数において 8 位以上に入った。前回、「積極的治療の意思決定」は 10 年未

満と 20 年以上で 11 位以下であったが、今回はどの経験年数においても上記の通り上位に入った。

看護実践の重要課題については、5 年未満の対象者の平均値が他に比べて低かった。ここでも「意思決定支援」は 1 位あるいは 2 位に入っており、「在宅療養を可能にするための支援」はいずれにおいても 4 位までに入っていた。また、「治療選択に関する意思決定」は、5 年未満では 9 位であるのに対し、他では 1 位または 2 位に入っていた。「アドバンスケアプランニング」は、いずれの群も 10 位までに入っていた。

前回は、「在宅療養を可能にするための支援（前回「在宅療養を促す支援」）」はどの経験年数においても 20 位以内に入らなかったが、今回は上記の通り上位に入った。「倫理的課題／倫理的判断」は前回は全ての経験年数において 11 位までに入ったが、今回は 10 年未満では 5 位以内、10 年以上では下位（10 年以上 20 年未満では 94 位、20 年以上では 87 位）と対称的であった。

認定資格の有無別の結果は表 9･10 に示す通りであり、看護研究および看護実践の重要課題において、認定資格のある者の方がない者に比べ全体的に平均値が高かった。

看護研究の重要課題について、両群で平均値が上位に入っていた項目は類似しており、「治療選択に関する意思決定」「意思決定支援」「倫理的課題／倫理的判断」「療養の場の移行に関する意思決定」「がんの親を持つ子供の問題・対応」が入っていた。

前回調査との比較では、前回は認定資格のある者でのみ「看護師のコミュニケーション」が 20 位以内に入ったが今回も同様であった。また、前回「積極的治療の意思決定（今回：治療選択に関する意思決定）」は認定資格のある者のみ上位であったが、今回は認定資格の有無に関わらず上位に入った。「多職種連携」は認定資格のない者でのみ上位に入ったが、今回は認定資格がある者では 9 位、ない者では 22 位であった。

看護実践の重要課題についても同様の傾向がみられ、双方ともに「意思決定支援」が 1 位であり、「治療選択に関する意思決定」「在宅療養を可能にするための支援」が 4 位までに入っていた。

前回の調査では認定資格の有無に関わらず「痛み」「倦怠感」が 6 位以内に入ったが、今回は両者とも 7 位以下であった。また、認定資格のある者でのみ 20 位に入った「アドバンスケアプランニング」は、今回は双方ともに上位に入った。

3. がん患者の苦痛症状と看護師にとってマネジメント困難な症状

1) 全体　【表 11】

患者の苦痛症状とマネジメント困難な症状の結果は表 11 に示す通りであり、患者にとって最も苦痛だと思う症状として、80%以上の対象が「痛み」を挙げており、次いで「息切れ／呼吸困難」「倦怠感」「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」「嘔気・嘔吐」の順に選択割合が高かった。

前回との比較では、今回新規追加の項目「がん悪液質」が 8 位に入った以外は、11 位までほぼ同じ項目、順位であった。がん患者にとって最も苦痛だと思う症状の割合の変化に着目すると、最も割合が増加したのは「栄養状態の変化（体重減少／増加など）」（前回 0.6%→今回 2.8%、以下、同様）であり、最も減少したのは「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」（23.6%→20.1%）であった。

一方、看護師にとってマネジメントが困難だと思う症状として、半数以上が「倦怠感」を挙げており、次いで「末梢神経障害」「息切れ／呼吸困難」「がん悪液質」「認知機能障害（ケモブレイン等含む）」の順となっており、患者の苦痛症状と一部重なるが異なる項目もみられた。

前回との比較では 10 位まではほぼ同じだが、4 位に新規項目「がん悪液質」が入り、「痛み」の順位が上がり、「晩期障害：神経系の障害」「晩期障害：肺の障害」の 2 項目の順位が特に下がった。マネジメントが困難だと思う割合を前回と比較すると、「痛み」が最も増加（12.3%→17.5%）した一方、比較的大きく多く減少したのは「晩期障害：神経系の障害」（15.8%→4.9%）、「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」（24.9%→17.0%）、「晩期障害：肺の障害」（13.6%→2.3%）、「せん妄」（21.0%→14.0%）であった。

2）対象の背景別による比較　【表 12】～【表 19】

<u>職場別</u>の結果は表 12･13 に示す通りであり、患者の苦痛症状については、教育・研究機関および臨床現場において上位 3 位まで「痛み」「息切れ／呼吸困難」「倦怠感」と共通しており、4 位以降についてはすべての群で「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」「嘔気・嘔吐」「末梢神経障害」「がん悪液質」が 10 位までに入っていた。前回調査では上記のうち新規追加項目の「がん悪液質」以外の 6 項目が一部順位の違いはあるものの、どの職場においても上位に入ったが、今回も同様の傾向が見られた。

マネジメント困難な症状に関しては、「倦怠感」「息切れ／呼吸困難」「末梢神経障害」を選択する割合が高く、いずれの群においても上位 4 位までに入っていた。「痛み」は病院以外では 5 位までに入っていたが、病院勤務者の中では 8 位であった。前回調査でも「倦怠感」「息切れ／呼吸困難」「末梢神経障害」を選ぶ割合がどの職場においても高く、傾向は大きくは変わらなかった。

<u>教育背景別</u>の結果は表 14･15 に示す通りであり、患者の苦痛症状に関しては、いずれの群においても「痛み」「息切れ／呼吸困難」が 1 位、2 位となっており、3 位から 5 位は博士修了者以外は「倦怠感」「嘔気・嘔吐」「心理的苦悩（不安・抑うつ）」を挙げた人の割合が高いのに対し、博士修了者は「嘔気・嘔吐」より「末梢神経障害」を選択する人の割合が高く上位に入っていた。前回調査では「痛み」、「息切れ 呼吸困難」、「倦怠感」の順でいずれの群においても割合が高く、今回もほぼ同様の傾向であった。

マネジメント困難な症状については、「倦怠感」が共通して 1 位となっていたが、専門学校卒業者以外は「息切れ／呼吸困難」「末梢神経障害」が 2 位、3 位であったのに対し、専門学校卒業者は「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」を上げる人の割合が高く 3 位となっていた。一方、「痛み」については、修士修了者以外は 4 位から 6 位に位置づいていたが、修士修了者の群では 8 位であった。前回調査では、「倦怠感」「息切れ／呼吸困難」「末梢神経障害」「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」が順位の多少の違いはあってもどの群でも上位であったが、今回は前者 3 項目は同様に上位である一方、「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」は専門学校卒業者以外の群では 7 位以下と低い傾向であった。「痛み」に関しては、博士後期課程修了者では 4 位、その他の群では 8 位以下という差があったが、今回は上記の通り、修士修了者でのみやや低い順位であった。

<u>がん看護臨床経験年数別</u>の結果は表 16･17 に示す通りであり、いずれの対象者においても患者の苦痛症状として「痛み」を挙げる人の割合が最も高く 1 位であった。ついで 6 位までに「息切れ／呼吸困難」「倦怠感」「心理的苦悩（不安・抑うつ等）」「嘔気・嘔吐」「末梢神経障害」など同様の症状が入っていた。前回調査でも臨床経験年数に関わらず、同様の傾向であった。

マネジメント困難な症状については、すべての群で「倦怠感」を選ぶ人の割合が高く 1 位であった。がん看護経験年数 10 年以上の群では 2 位、3 位に「末梢神経障害」「息切れ／呼吸困難」が挙げられて

いたが、5 年以上 10 年未満では「倦怠感」「息切れ／呼吸困難」が 1 位で、それについで「末梢神経障害」が 3 位であった。また 5 年未満では痛みが 2 位であった。前回調査でもいずれの群でも「倦怠感」を選ぶ割合が最も高かったが、10 年未満の群では 10 年以上の群と比べて「痛み」が高く、「末梢神経障害」が低かった。今回調査でも 5 年未満の群では「痛み」の割合が高かったが、「末梢神経障害」はいずれの群でも高かった。

認定資格の有無別の結果は表 18･19 に示す通りであり、患者の苦痛症状では認定資格の有無にかかわらず、1 位から 6 位までまったく同じであり、「痛み」「息切れ／呼吸困難」「倦怠感」「心理的苦悩（不安・抑うつ等)」「嘔気・嘔吐」「末梢神経障害」の順であった。前回調査でも同様であった。

また、マネジメント困難な症状について、1 位から 3 位までは「倦怠感」「末梢神経障害」「息切れ／呼吸困難」であったが、資格あり群では「がん悪液質」が 4 位、「食欲不振／食欲の変化／味覚障害」が 5 位となっており資格なし群とは異なっていた。前回調査では「倦怠感」「末梢神経障害」「息切れ 呼吸困難」「心理的苦悩（不安、抑うつ等)」「せん妄」が資格の有無にかかわらず 5 位までに入った。

4. その他の重要ながん看護研究の課題 【表 20】

がん医療における看護研究において、研究課題で必要なものについての自由記載は 59 件 49 名の回答を得た。がん患者の看護実践において、研究課題で必要なものについては 16 件 13 名から回答を得た。本調査の質問項目に沿って内容を分類し、質問紙の項目と重複した項目と、特になしと回答したものを除き分析を行った結果、自由記載であげられた研究課題は、表 20 に示す通りであった。質問項目に含まれない新規のものとして、がん患者の学業と治療の両立、独居／身寄りのない患者への支援、治療を自己中断した患者への支援、サバイバーへの継続支援システム構築、急性期病院での看取り、一般市民への ACP（アドバンスケアプラニング）の普及、診療報酬、がん経験看護師のケア、がん医療を担う人材育成、がん患者と SNS、希少がん、がん治療とコロナ禍等が挙げられた。

Ⅴ．まとめ

前回調査（2016 年）から 6 年を経て、今回本学会員を対象に Research Priority に関する Web 調査を行った。前回の回答率は 13.5%であったのに対し、今回はメール登録を行っている学会員数の増加を反映して、回答実数は 100 名余り増加したが回答率は 11.4%と低下した。回答率が低い背景として、設問項目数が多いこと、また昨今は学会に関連するアンケート調査が多いことも一因と考えられる。回答者の属性を全学会員の属性[8]と比較すると、20 歳代（学会員 2%、今回対象者 0.2%）、30 歳代（同 18%、12.4%）が少なく、50 歳代（同 30%、39.1%）が多い。一方所属施設を見ると教育・研究機関所属者の割合が高く（同 18%、22.6%）、病院所属者の割合は少ない（同 77%、71.8%）。前回調査と比較して、年齢、臨床経験年数、学位（修士）取得者割合、専門看護師の割合が上昇していたことから、本調査の回答は全会員の中でもがん看護の実践、教育、研究についてより専門性の高い人の回答が反映されていると考えられる。一方で、全会員の一割ほどの意見であることから、今後は広く意見を得る方策を検討する必要がある。

がん看護研究における重要課題として、前回と同様に「意思決定支援」と「倫理的課題（判断)」は重要と考えられる傾向が見られた。また、意思決定支援の中でも「治療選択に関する意思決定」（前回「積

極的治療の意思決定」）が大きく上昇したのは治療法が多様化し、治療選択を患者・医療者ともに行う場面が多くなってきたことが関連すると考えられる。また「アドバンスケアプランニング」も大幅に順位が上がったのは、ACP に対する認識が高まり、臨床で活用される場面が増えたことも一因であると考えられる。これらの傾向は、がん看護実践における重要課題においても同様であり、研究、実践の双方で重要課題と認識されていることが示されたといえる。

対象属性別に回答状況を比較した結果、看護研究の重要課題では、「在宅療養を可能にするための支援」、「がんの親を持つ子供の問題・対応」「症状マネジメント」「意思決定支援」「アドバンスケアプランニング」「痛み」などが共通して 20 位以内に入っており、属性を問わず重要と認識される項目であることが明らかとなった。職場別で見ると教育・研究機関では「情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）」と「小児、AYA 世代にあるがん患者（新規）」「就労支援」、「子を持つがん患者（新規）」の 4 つが 20 位以内に入っており特徴的であった。一方、病院では「看護師のコミュニケーション」、「生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定」が、訪問看護ステーションでは「訪問看護（新規）」「家族の機能」「がん悪液質」「経済的問題」が上位に入るなど、各職場の特性が現れる結果となっていた。看護実践の重要課題について前回調査と比較すると、教育・研究機関では「在宅療養を可能にするための支援」、「セルフマネジメント／セルフケア」が特に 1 位となり、病院と訪問看護ステーションは共に「治療選択に関する意思決定」が前回 20 位圏外から上位になるなど職場による相違がここでも示された。

がん患者の苦痛症状については、8 割以上が「痛み」を挙げ、「息切れ／呼吸困難」「倦怠感」「心理的苦悩（不安、抑うつ等）」「嘔気・嘔吐」の順に選択割合が高く、今回新規追加の項目「がん悪液質」が 8 位に入った以外は、11 位まで前回とほぼ同じ項目、順位であった。苦痛症状として認識される項目は、大きく変化することはないことが示されたといえる。一方、マネジメントが困難な症状として、5 割以上が「倦怠感」を挙げ、ついで「末梢神経障害」「息切れ／呼吸困難」「がん悪液質」「認知機能障害（ケモブレイン等含む）」となっており、苦痛症状と一部重なるものの異なる項目が示されていたことから、コントロール可能な症状と困難な症状とが分かれる結果と見ることができる。これらの結果について、対象属性別、あるいは前回調査との比較において、大きな相違は示されなかったことから、がん看護に携わるものにとり、大きな相違のない結果であると考えられる。

今回の調査は、前回調査項目から 2 項目削除し、12 項目追加して行ったが、更に追加すべき項目として、がん患者の学業と治療の両立、独居／身寄りのない患者への支援、治療を自己中断した患者への支援、サバイバーへの継続支援システム構築、急性期病院での看取り、一般市民への ACP の普及、がん経験看護師のケア、がん医療を担う人材育成、がん患者と SNS、希少がん、がん治療とコロナ禍等、がん治療の現状や世相を反映した項目が挙げられた。

今後は本調査結果を踏まえ、がん看護研究の重要課題、がん看護実践の重要課題として特に上位に挙げられた項目の課題解決に資する研究の支援、セミナーの開催、教育プログラムの開発など、学会として支援可能な方策を具体的に打ち出していくことが求められる。

本調査にご協力いただいた本学会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

Ⅵ. 表 1～20

表１　対象者の背景　　N＝571

	人数	%
年齢分布		
20 歳代	1	0.2
30 歳代	71	12.4
40 歳代	240	42.0
50 歳代	223	39.1
60 歳代	36	6.3
性別		
女性	541	94.7
男性	30	5.3
臨床経験年数の分布		
5 年未満	14	2.5
5 年以上 10 年未満	41	7.2
10 年以上 20 年未満	154	27.0
20 年以上	362	63.4
がん看護臨床経験年数の分布		
5 年未満	15	2.6
5 年以上 10 年未満	40	7.0
10 年以上 20 年未満	239	41.9
20 年以上	277	48.5
職場		
教育・研究機関	129	22.6
病院	410	71.8
訪問看護ステーション	15	2.6
該当なし	17	3.0
学生の所属機関		
大学院	66	11.6
認定看護師教育機関	16	2.8
学生ではない	483	84.6
その他	6	1.1
職位		
教授	41	7.2
准教授	26	4.6
講師	26	4.6
助教	26	4.6
助手	1	0.2
看護部長／所長	17	3.0
副看護部長	20	3.5
病棟責任者（師長／科長／課長等）	74	13.0
副師長／主任等	123	21.5
スタッフ	186	32.6
該当なし	22	3.9
その他	9	1.6

	人数	%
教育背景		
博士後期課程修了	85	14.9
博士前期課程・修士課程修了	236	41.3
大学卒業	49	8.6
短期大学卒業	38	6.7
専門学校卒業	163	28.5
認定資格		
あり	391	68.5
専門看護師	169	43.2
がん看護専門看護師	158	93.5
精神看護専門看護師	3	1.8
遺伝看護専門看護師	3	1.8
地域看護専門看護師	1	0.6
老人看護専門看護師	1	0.6
家族支援専門看護師	1	0.6
在宅看護専門看護師	1	0.6
分野不明	1	0.0
認定看護師	242	61.9
がん化学療法認定看護師	98	40.5
がん放射線療法認定看護師	26	10.7
がん性疼痛看護認定看護師	37	15.3
緩和ケア認定看護師	57	23.6
乳がん看護認定看護師	17	7.0
皮膚・排泄ケア認定看護師	5	2.1
その他	7	2.9
その他	11	2.8
なし	180	31.5
評議員の経験		
あり	78	13.7
なし	493	86.3
研究の優先性の調査の経験		
あり	96	16.8
なし	475	83.2

表 2　がん看護研究およびがん看護実践の重要課題　N=571

順位	がん看護研究	平均値	SD	順位	がん看護実践	平均値	SD
1 (20)	治療選択に関する意思決定[*1]	2.80	0.46	1 (4)	意思決定支援[*2]	2.80	0.48
1 (3)	意思決定支援[*2]	2.80	0.46	2 (－)	治療選択に関する意思決定[*1]	2.78	0.51
3 (1)	倫理的課題／倫理的判断	2.76	0.48	3 (－)	在宅療養を可能にするための支援[*3]	2.76	0.51
4(12)	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.75	0.49	4 (-)	アドバンスケアプランニング	2.75	0.55
5 (－)	在宅療養を可能にするための支援[*3]	2.74	0.50	5 (8)	症状マネジメント[*5]	2.74	0.53
5 (1)	療養の場の移行に関する意思決定[*4]	2.74	0.52	5 (3)	療養の場の移行に関する意思決定[*4]	2.74	0.53
5 (15)	アドバンスケアプランニング	2.74	0.53	5 (4)	倫理的課題／倫理的判断	2.74	0.57
8 (8)	症状マネジメント[*5]	2.72	0.54	8(12)	セルフマネジメント／セルフケア[*6]	2.71	0.53
9(12)	セルフマネジメント／セルフケア[*6]	2.70	0.53	9 (1)	痛み	2.70	0.60
9 (6)	痛み	2.70	0.58	10 (8)	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.69	0.56
11(4)	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.69	0.52	10 (8)	緩和ケアに関する意思決定[*7]	2.69	0.61
11(8)	QOL	2.69	0.58	12 (4)	QOL	2.68	0.58
13(4)	緩和ケアに関する意思決定[*7]	2.68	0.55	13(13)	多職種連携	2.66	0.61
13(15)	多職種連携	2.68	0.57	13 (2)	息切れ／呼吸困難	2.66	0.62
15 (+)	外来看護	2.67	0.55	15(15)	生活の再構築／生活の調整[*8]	2.65	0.57
16(15)	生活の再構築／生活の調整[*8]	2.65	0.56	15 (－)	在宅療養における介護負担・支援	2.65	0.59
16(20)	心理社会的適応	2.65	0.57	15 (4)	倦怠感	2.65	0.60
16(12)	在宅療養における介護負担・支援	2.65	0.58	15 (－)	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.65	0.60
19 (+)	子を持つがん患者	2.64	0.57	15(15)	看護師のコミュニケーション	2.65	0.61
20(20)	看護師のコミュニケーション	2.63	0.57	15 (+)	外来看護	2.65	0.62
20 (7)	倦怠感	2.63	0.58				
20 (－)	家族ケア(家族の身体･心理･社会的ケア)[*9]	2.63	0.58				
20 (+)	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.63	0.59				
20(11)	息切れ／呼吸困難	2.63	0.61				

括弧内は前回調査時順位。(－)は前回 20 位圏外、(+)は今回調査での新規追加項目を示す。

前回：*1 積極的治療の意思決定、*2 看護介入の開発：意思決定、*3 在宅療養を促す支援、*4 療養の場の移行の意思決定、*5 看護介入・ケア方法の開発：症状マネジメント、*6 看護介入の開発：セルフマネジメント／看護介入の開発：セルフケア（2 項目）、*7 緩和ケアの意思決定、*8 看護介入の開発：生活の再構築／生活の調整、*9 家族のグリーフケア

表 3　がん看護研究の重要課題（職場別）

順位	教育・研究機関（N=129）	平均値	SD	順位	病院（がん専門病院、大学病院、一般病院、クリニック／診療所）（N=410）	平均値	SD	順位	訪問看護ステーション（N=15）	平均値	SD	順位	該当なし（N=17）	平均値	SD
1	在宅療養を可能にするための支援	2.74	0.55	1	治療選択に関する意思決定	2.86	0.36	1	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.93	0.25	1	妊孕性	2.82	0.38
2	倫理的課題／倫理的判断	2.71	0.59	2	意思決定支援	2.84	0.39	1	訪問看護	2.93	0.25	1	症状マネジメント	2.82	0.38
3	療養の場の移行に関する意思決定	2.69	0.58	3	倫理的課題／倫理的判断	2.78	0.44	3	QOL	2.87	0.34	3	アドバンスケアプランニング	2.76	0.42
3	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.69	0.59	4	アドバンスケアプランニング	2.77	0.49	3	症状マネジメント	2.87	0.34	3	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.76	0.42
5	セルフマネジメント／セルフケア	2.67	0.60	5	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.76	0.46	3	意思決定支援	2.87	0.34	3	認知症のあるがん患者	2.76	0.42
6	症状マネジメント	2.67	0.61	5	療養の場の移行に関する意思決定	2.76	0.49	3	家族の機能	2.87	0.34	3	痛み	2.76	0.55
7	意思決定支援	2.66	0.63	7	在宅療養を可能にするための支援	2.75	0.49	3	在宅療養における介護負担・支援	2.87	0.34	3	訪問看護	2.76	0.55
8	情報共有・情報システム（ICT，テレナーシング，遠隔医療含む）	2.65	0.59	8	QOL	2.74	0.51	3	多職種連携	2.87	0.34	8	息切れ／呼吸困難	2.71	0.46
9	痛み	2.64	0.64	9	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.72	0.48	9	痛み	2.80	0.40	8	口内乾燥／口内炎	2.71	0.46
10	倦怠感	2.64	0.61	9	緩和ケアに関する意思決定	2.72	0.50	9	息切れ／呼吸困難	2.80	0.40	8	意思決定支援	2.71	0.46
11	治療選択に関する意思決定	2.63	0.64	11	症状マネジメント	2.72	0.52	9	がん悪液質	2.80	0.40	8	生活の再構築／生活の調整	2.71	0.46
11	アドバンスケアプランニング	2.63	0.66	12	多職種連携	2.72	0.52	9	心理社会的適応	2.80	0.40	8	在宅療養を可能にするための支援	2.71	0.46
13	生活の再構築／生活の調整	2.62	0.64	13	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.50	9	経済的問題	2.80	0.40	8	QOL	2.71	0.57
13	外来看護	2.62	0.66	14	痛み	2.70	0.57	9	治療選択に関する意思決定	2.80	0.40	8	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.57
15	在宅療養における介護負担・支援	2.61	0.63	15	看護師のコミュニケーション	2.69	0.52	9	緩和ケアに関する意思決定	2.80	0.40	15	家族のがんへの適応	2.65	0.48
16	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.60	0.62	16	外来看護	2.69	0.51	9	療養の場の移行に関する意思決定	2.80	0.40	15	倦怠感	2.65	0.59
17	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.59	0.68	16	コミュニケーション	2.69	0.54	9	生活の再構築／生活の調整	2.80	0.40	15	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	2.65	0.59
17	息切れ／呼吸困難	2.59	0.70	18	家族ケア（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.68	0.54	9	アドバンスケアプランニング	2.80	0.40	15	末梢神経障害	2.65	0.59
19	就労支援	2.57	0.63	19	心理社会的適応	2.68	0.53	9	在宅療養を可能にするための支援	2.80	0.40	15	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.65	0.59
19	子を持つがん患者	2.57	0.67	20	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.67	0.59	9	家族ケア（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.80	0.40	15	コミュニケーション	2.65	0.59
19	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.57	0.68					9	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.80	0.40	15	治療選択に関する意思決定	2.65	0.59
19	心理社会的適応	2.57	0.69					9	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.80	0.40	15	アドヒアランス	2.65	0.59
								9	認知症のあるがん患者	2.80	0.40	15	倫理的課題／倫理的判断	2.65	0.59
												15	高齢がん患者	2.65	0.59

表 4　がん看護実践の重要課題（職場別）

順位	教育・研究機関（N=129）	平均値	SD
1	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.58
1	在宅療養を可能にするための支援	2.71	0.59
3	療養の場の移行に関する意思決定	2.70	0.59
4	症状マネジメント	2.67	0.61
4	意思決定支援	2.67	0.64
6	痛み	2.67	0.66
7	治療選択に関する意思決定	2.65	0.65
7	倫理的課題／倫理的判断	2.65	0.68
9	アドバンスケアプランニング	2.64	0.67
9	息切れ／呼吸困難	2.64	0.69
11	倦怠感	2.64	0.67
12	QOL	2.62	0.68
13	生活の再構築／生活の調整	2.60	0.66
13	外来看護	2.60	0.69
15	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.59	0.68
16	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.58	0.67
16	在宅療養における介護負担・支援	2.58	0.68
18	末梢神経障害	2.57	0.68
18	緩和ケアに関する意思決定	2.57	0.74
20	希望	2.57	0.69
20	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.57	0.69

順位	病院（がん専門病院、大学病院、一般病院、クリニック／診療所）（N=410）	平均値	SD
1	意思決定支援	2.84	0.42
2	治療選択に関する意思決定	2.82	0.46
3	アドバンスケアプランニング	2.78	0.51
4	在宅療養を可能にするための支援	2.77	0.48
5	倫理的課題／倫理的判断	2.76	0.53
6	療養の場の移行に関する意思決定	2.76	0.51
7	症状マネジメント	2.74	0.51
8	緩和ケアに関する意思決定	2.73	0.55
9	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.73	0.52
10	看護師のコミュニケーション	2.71	0.55
11	痛み	2.70	0.58
12	QOL	2.70	0.54
13	セルフマネジメント／セルフケア	2.70	0.53
14	コミュニケーション	2.69	0.55
14	多職種連携	2.69	0.56
16	看護師のストレスマネジメント	2.68	0.58
17	在宅療養における介護負担・支援	2.67	0.57
17	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.67	0.59
19	外来看護	2.66	0.61
20	倦怠感	2.66	0.58
20	息切れ／呼吸困難	2.66	0.61

順位	訪問看護ステーション（N=15）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	3.00	0.00
1	療養の場の移行に関する意思決定	3.00	0.00
1	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	3.00	0.00
1	症状マネジメント	3.00	0.00
1	生活の再構築／生活の調整	3.00	0.00
1	訪問看護	3.00	0.00
7	QOL	2.93	0.25
7	緩和ケアに関する意思決定	2.93	0.25
7	セルフマネジメント／セルフケア	2.93	0.25
7	在宅療養を可能にするための支援	2.93	0.25
11	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	2.87	0.34
11	がん悪液質	2.87	0.34
11	コーピング	2.87	0.34
11	セルフエフィカシー	2.87	0.34
11	コミュニケーション	2.87	0.34
11	アドヒアランス	2.87	0.34
11	意思決定支援	2.87	0.34
11	心理社会／心理教育	2.87	0.34
11	リハビリテーション	2.87	0.34
11	アドバンスケアプランニング	2.87	0.34
11	在宅療養における介護負担・支援	2.87	0.34
11	多職種連携	2.87	0.34
11	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.87	0.34
11	認知症のあるがん患者	2.87	0.34

順位	該当なし（N=17）	平均値	SD
1	息切れ／呼吸困難	2.82	0.38
1	症状マネジメント	2.82	0.38
1	意思決定支援	2.82	0.38
4	口内乾燥／口内炎	2.76	0.42
4	末梢神経障害	2.76	0.42
4	治療選択に関する意思決定	2.76	0.42
4	セルフマネジメント／セルフケア	2.76	0.42
4	生活の再構築／生活の調整	2.76	0.42
4	訪問看護	2.76	0.42
10	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	2.71	0.46
10	嚥下困難・開口障害	2.71	0.46
10	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.71	0.46
10	在宅療養を可能にするための支援	2.71	0.46
10	外来看護	2.71	0.46
10	痛み	2.71	0.57
10	子を持つがん患者	2.71	0.57
17	倦怠感	2.65	0.48
17	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	2.65	0.48
17	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	2.65	0.48
17	心理社会的適応	2.65	0.48
17	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.65	0.48
17	嘔気・嘔吐	2.65	0.59
17	下痢／便秘	2.65	0.59
17	せん妄	2.65	0.59
17	コーピング	2.65	0.59
17	希望	2.65	0.59
17	アドヒアランス	2.65	0.59
17	アドバンスケアプランニング	2.65	0.59
17	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.65	0.59
17	認知症のあるがん患者	2.65	0.68

表５　がん看護研究の重要課題（教育背景別）

順位	博士後期課程修了（N=85）	平均値	SD
1	倫理的課題／倫理的判断	2.69	0.57
2	療養の場の移行に関する意思決定	2.62	0.65
2	在宅療養を可能にするための支援	2.62	0.63
4	症状マネジメント	2.61	0.69
5	倦怠感	2.59	0.62
6	痛み	2.58	0.68
7	情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）	2.55	0.69
7	認知症のあるがん患者	2.55	0.73
9	セルフマネジメント ／ セルフケア	2.54	0.70
9	アドバンスケアプランニング	2.54	0.70
11	息切れ／呼吸困難	2.53	0.70
11	治療選択に関する意思決定	2.53	0.70
11	意思決定支援	2.53	0.71
11	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.53	0.71
15	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.51	0.73
15	外来看護	2.51	0.71
17	在宅療養における介護負担・支援	2.49	0.73
18	就労問題	2.48	0.66
18	生活の再構築／生活の調整	2.48	0.73
20	緩和ケアに関する意思決定	2.47	0.68
20	就労支援	2.47	0.66
20	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.47	0.70

順位	博士前期課程・修士課程修了（N=236）	平均値	SD
1	意思決定支援	2.83	0.39
2	治療選択に関する意思決定	2.82	0.42
3	倫理的課題／倫理的判断	2.81	0.46
4	アドバンスケアプランニング	2.77	0.50
5	療養の場の移行に関する意思決定	2.76	0.48
5	在宅療養を可能にするための支援	2.76	0.48
7	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.75	0.47
8	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.74	0.47
9	生活の再構築／生活の調整	2.74	0.45
10	セルフマネジメント ／ セルフケア	2.73	0.48
10	症状マネジメント	2.73	0.50
12	QOL	2.72	0.56
13	緩和ケアに関する意思決定	2.72	0.51
13	多職種連携	2.72	0.54
15	外来看護	2.71	0.52
16	看護師のコミュニケーション	2.69	0.52
17	心理社会的適応	2.69	0.56
18	子を持つがん患者	2.69	0.52
19	在宅療養における介護負担・支援	2.67	0.55
19	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.67	0.57

順位	大学卒業（N=49）	平均値	SD
1	意思決定支援	2.92	0.27
2	治療選択に関する意思決定	2.90	0.36
3	多職種連携	2.84	0.42
4	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.82	0.39
5	痛み	2.80	0.45
5	QOL	2.80	0.45
5	アドバンスケアプランニング	2.80	0.40
8	セルフマネジメント ／ セルフケア	2.78	0.46
8	症状マネジメント	2.78	0.46
8	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.78	0.46
11	療養の場の移行に関する意思決定	2.76	0.52
12	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.73	0.44
12	心理社会的適応	2.73	0.44
12	コミュニケーション	2.73	0.49
15	在宅療養を可能にするための支援	2.69	0.46
15	家族ケア　（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.69	0.54
17	緩和ケアに関する意思決定	2.67	0.55
17	生活の再構築／生活の調整	2.67	0.47
17	家族のがんへの適応	2.67	0.51
17	子を持つがん患者	2.67	0.51

順位	短期大学卒業（N=38）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.89	0.31
1	意思決定支援	2.89	0.31
3	痛み	2.84	0.43
3	療養の場の移行に関する意思決定	2.84	0.36
5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.82	0.45
5	緩和ケアに関する意思決定	2.82	0.39
5	アドバンスケアプランニング	2.82	0.45
5	在宅療養を可能にするための支援	2.82	0.39
9	家族ケア　（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.79	0.41
9	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.79	0.41
11	QOL	2.76	0.48
12	倦怠感	2.74	0.50
12	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.74	0.50
12	家族のがんへの適応	2.74	0.44
12	在宅療養における介護負担・支援	2.74	0.44
12	倫理的課題／倫理的判断	2.74	0.44
12	外来看護	2.74	0.50
18	晩期障害：肺の障害	2.73	0.50
19	息切れ／呼吸困難	2.71	0.51
19	セルフマネジメント ／ セルフケア	2.71	0.45
19	症状マネジメント	2.71	0.51
19	生活の再構築／生活の調整	2.71	0.45
19	多職種連携	2.71	0.51
19	小児 AYA 世代にあるがん患者	2.71	0.56

順位	専門学校卒業（N=163）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.87	0.34
2	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.83	0.39
3	意思決定支援	2.82	0.42
4	在宅療養を可能にするための支援	2.78	0.47
5	アドバンスケアプランニング	2.77	0.51
5	倫理的課題／倫理的判断	2.77	0.45
7	痛み	2.75	0.54
8	療養の場の移行に関する意思決定	2.74	0.51
9	症状マネジメント	2.74	0.53
10	QOL	2.72	0.51
11	セルフマネジメント ／ セルフケア	2.72	0.50
11	多職種連携	2.72	0.51
11	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.72	0.48
14	緩和ケアに関する意思決定	2.71	0.52
15	ソーシャルサポート	2.70	0.50
15	家族ケア　（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.70	0.50
17	家族のがんへの適応	2.69	0.54
18	心理社会的適応	2.69	0.51
18	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.69	0.58
18	在宅療養における介護負担・支援	2.69	0.57
18	外来看護	2.69	0.49

表 6　がん看護実践の重要課題（教育背景別）

順位	博士後期課程修了（N=85）	平均値	SD
1	在宅療養を可能にするための支援	2.65	0.63
2	倦怠感	2.64	0.72
2	症状マネジメント	2.64	0.68
4	意思決定支援	2.62	0.70
5	療養の場の移行に関する意思決定	2.61	0.65
6	痛み	2.61	0.74
7	セルフマネジメント／セルフケア	2.60	0.67
8	末梢神経障害	2.59	0.71
8	倫理的課題／倫理的判断	2.59	0.72
10	息切れ／呼吸困難	2.58	0.77
10	治療選択に関する意思決定	2.58	0.73
12	アドバンスケアプランニング	2.56	0.73
13	認知症のあるがん患者	2.53	0.79
14	QOL	2.51	0.79
14	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.51	0.76
14	生活の再構築／生活の調整	2.51	0.73
14	情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）	2.51	0.73
18	緩和ケアに関する意思決定	2.49	0.81
18	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.49	0.73
20	在宅療養における介護負担・支援	2.48	0.75
20	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.48	0.75

順位	博士前期課程・修士課程修了（N=236）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.84	0.44
2	意思決定支援	2.82	0.43
3	倫理的課題／倫理的判断	2.81	0.48
4	在宅療養を可能にするための支援	2.78	0.48
5	療養の場の移行に関する意思決定	2.78	0.49
6	アドバンスケアプランニング	2.77	0.52
7	セルフマネジメント／セルフケア	2.75	0.49
7	症状マネジメント	2.75	0.50
9	生活の再構築／生活の調整	2.75	0.48
10	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.74	0.49
11	QOL	2.73	0.50
12	緩和ケアに関する意思決定	2.72	0.57
13	多職種連携	2.72	0.57
14	外来看護	2.71	0.56
15	看護師のコミュニケーション	2.70	0.58
16	コミュニケーション	2.69	0.58
17	在宅療養における介護負担・支援	2.69	0.55
18	痛み	2.68	0.56
18	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.68	0.53
20	息切れ／呼吸困難	2.67	0.58

順位	大学卒業（N=49）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.84	0.37
2	意思決定支援	2.82	0.39
3	在宅療養を可能にするための支援	2.80	0.40
4	痛み	2.78	0.58
4	療養の場の移行に関する意思決定	2.78	0.51
6	アドバンスケアプランニング	2.76	0.52
6	在宅療養における介護負担・支援	2.76	0.43
6	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.76	0.43
6	多職種連携	2.76	0.48
10	症状マネジメント	2.73	0.49
10	家族ケア　（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.73	0.49
10	子を持つがん患者	2.73	0.49
13	息切れ／呼吸困難	2.71	0.57
13	コミュニケーション	2.71	0.49
13	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.49
16	QOL	2.69	0.54
17	心理社会的適応	2.67	0.59
17	緩和ケアに関する意思決定	2.67	0.59
17	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.67	0.55
20	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.65	0.56
20	ソーシャルサポート	2.65	0.52
20	ケアリング	2.65	0.52
20	外来看護	2.65	0.56

順位	短期大学卒業（N=38）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.92	0.27
2	意思決定支援	2.89	0.31
3	緩和ケアに関する意思決定	2.87	0.34
4	療養の場の移行に関する意思決定	2.84	0.43
5	アドバンスケアプランニング	2.79	0.41
6	痛み	2.76	0.43
6	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.76	0.58
6	症状マネジメント	2.76	0.43
9	倦怠感	2.74	0.50
9	QOL	2.74	0.50
9	在宅療養を可能にするための支援	2.74	0.50
9	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.74	0.55
9	認知症のあるがん患者	2.74	0.44
14	心理社会的適応	2.71	0.45
14	コミュニケーション	2.71	0.51
14	在宅療養における介護負担・支援	2.71	0.60
14	多職種連携	2.71	0.56
14	外来看護	2.71	0.56
19	息切れ／呼吸困難	2.68	0.52
19	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.68	0.52
19	セルフマネジメント／セルフケア	2.68	0.46
19	生活の再構築／生活の調整	2.68	0.46
19	家族のがんへの適応	2.68	0.52
19	家族ケア　（家族の身体・心理・社会的ケア）	2.68	0.52
19	高齢がん患者	2.68	0.52
19	訪問看護	2.68	0.52

順位	専門学校卒業（N=163）	平均値	SD
1	意思決定支援	2.84	0.44
2	アドバンスケアプランニング	2.80	0.52
3	在宅療養を可能にするための支援	2.79	0.49
4	症状マネジメント	2.77	0.51
5	治療選択に関する意思決定	2.76	0.52
6	療養の場の移行に関する意思決定	2.74	0.53
7	痛み	2.72	0.59
7	緩和ケアに関する意思決定	2.72	0.57
9	セルフマネジメント／セルフケア	2.70	0.53
10	QOL	2.69	0.57
11	息切れ／呼吸困難	2.68	0.60
11	コミュニケーション	2.68	0.56
11	多職種連携	2.68	0.58
14	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.67	0.59
15	外来看護	2.66	0.63
16	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.65	0.59
16	在宅療養における介護負担・支援	2.65	0.59
16	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.65	0.62
19	倦怠感	2.64	0.61
20	心理社会的適応	2.64	0.60

表 7　がん看護研究の重要課題（がん看護経験年数別）

順位	5 年未満（N=15）	平均値	SD	順位	5 年以上 10 年未満（N=40）	平均値	SD	順位	10 年以上 20 年未満（N=239）	平均値	SD	順位	20 年以上（N=277）	平均値	SD
1	アドバンスケアプランニング	2.67	0.79	1	治療選択に関する意思決定	2.88	0.40	1	治療選択に関する意思決定	2.84	0.41	1	意思決定支援	2.78	0.46
2	治療選択に関する意思決定	2.60	0.80	2	意思決定支援	2.85	0.42	2	倫理的課題／倫理的判断	2.82	0.42	2	治療選択に関する意思決定	2.77	0.47
2	療養の場の移行に関する意思決定	2.60	0.80	3	多職種連携	2.78	0.42	3	意思決定支援	2.81	0.44	3	療養の場の移行に関する意思決定	2.74	0.51
2	セルフマネジメント／セルフケア	2.60	0.80	4	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.75	0.43	4	在宅療養を可能にするための支援	2.80	0.45	4	倫理的課題／倫理的判断	2.73	0.50
2	意思決定支援	2.60	0.80	4	外来看護	2.75	0.43	5	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.79	0.43	5	アドバンスケアプランニング	2.73	0.51
2	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.60	0.80	4	セルフマネジメント／セルフケア	2.75	0.49	6	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.76	0.48	6	在宅療養を可能にするための支援	2.72	0.51
2	がん検診へのアドヒアランスを高める介入	2.60	0.80	4	生活の再構築／生活の調整	2.75	0.54	6	療養の場の移行に関する意思決定	2.76	0.52	7	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.71	0.53
2	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.60	0.80	8	療養の場の移行に関する意思決定	2.70	0.46	6	アドバンスケアプランニング	2.76	0.52	8	セルフマネジメント／セルフケア	2.69	0.51
9	症状マネジメント	2.53	0.81	8	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.70	0.46	9	症状マネジメント	2.76	0.53	8	症状マネジメント	2.69	0.53
9	生活の再構築／生活の調整	2.53	0.81	8	心理社会的適応	2.70	0.51	10	緩和ケアに関する意思決定	2.74	0.51	10	QOL	2.68	0.58
9	在宅療養を可能にするための支援	2.53	0.81	8	症状マネジメント	2.70	0.51	11	痛み	2.73	0.54	10	痛み	2.68	0.60
9	情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）	2.53	0.81	8	倫理的課題／倫理的判断	2.70	0.51	12	外来看護	2.73	0.50	12	多職種連携	2.68	0.53
9	倫理的課題／倫理的判断	2.53	0.81	8	アドバンスケアプランニング	2.70	0.64	12	QOL	2.73	0.54	13	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.67	0.51
9	痛み	2.53	0.88	14	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.68	0.47	14	子を持つがん患者	2.71	0.53	14	緩和ケアに関する意思決定	2.64	0.56
15	倦怠感	2.47	0.81	14	就労問題	2.68	0.47	15	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.52	14	心理社会的適応	2.64	0.58
15	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.47	0.81	14	緩和ケアに関する意思決定	2.68	0.47	15	在宅療養における介護負担・支援	2.71	0.57	16	倦怠感	2.64	0.56
15	ソーシャルサポート	2.47	0.81	14	息切れ／呼吸困難	2.68	0.52	17	多職種連携	2.70	0.58	17	外来看護	2.63	0.57
15	緩和ケアに関する意思決定	2.47	0.81	14	サバイバーへのリスク軽減の介入：身体活動と運動	2.68	0.57	18	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.70	0.53	18	生活の再構築／生活の調整	2.62	0.56
15	サバイバーへのリスク軽減の介入：身体活動と運動	2.47	0.81	14	サバイバーへのリスク軽減の介入：ストレスマネジメント	2.68	0.57	18	看護師のコミュニケーション	2.70	0.53	19	息切れ／呼吸困難	2.62	0.61
15	在宅療養における介護負担・支援	2.47	0.81	20	痛み	2.65	0.53	20	ソーシャルサポート	2.69	0.53	20	家族ケア(家族の身体・心理・社会的ケア)	2.62	0.57
15	がんに関する啓発教育	2.47	0.81	20	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.65	0.53					20	在宅療養における介護負担・支援	2.62	0.58
15	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.47	0.81	20	QOL	2.65	0.57								
15	子を持つがん患者	2.47	0.81												
15	就労支援	2.47	0.88												

表 8　がん看護実践の重要課題（がん看護経験年数別）

順位	5 年未満（N=15）	平均値	SD	順位	5 年以上 10 年未満（N=40）	平均値	SD	順位	10 年以上 20 年未満（N=239）	平均値	SD	順位	20 年以上（N=277）	平均値	SD
1	在宅療養を可能にするための支援	2.73	0.77	1	意思決定支援	2.80	0.56	1	治療選択に関する意思決定	2.82	0.47	1	意思決定支援	2.81	0.46
2	口内乾燥／口内炎	2.67	0.79	2	多職種連携	2.73	0.59	2	意思決定支援	2.80	0.46	2	治療選択に関する意思決定	2.77	0.50
2	症状マネジメント	2.67	0.79	2	治療選択に関する意思決定	2.73	0.63	3	在宅療養を可能にするための支援	2.78	0.46	3	療養の場の移行に関する意思決定	2.75	0.51
2	意思決定支援	2.67	0.79	4	在宅療養を可能にするための支援	2.70	0.60	4	アドバンスケアプランニング	2.77	0.53	3	在宅療養を可能にするための支援	2.75	0.51
5	療養の場の移行に関する意思決定	2.60	0.80	4	セルフマネジメント／セルフケア	2.70	0.64	5	療養の場の移行に関する意思決定	2.77	0.49	5	アドバンスケアプランニング	2.75	0.53
5	アドバンスケアプランニング	2.60	0.80	4	倫理的課題／倫理的判断	2.70	0.64	5	症状マネジメント	2.77	0.49	6	症状マネジメント	2.73	0.52
5	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.60	0.80	7	QOL	2.68	0.61	7	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.74	0.53	7	セルフマネジメント／セルフケア	2.70	0.52
5	倫理的課題／倫理的判断	2.60	0.80	8	コミュニケーション	2.65	0.61	8	在宅療養における介護負担・支援	2.74	0.52	8	緩和ケアに関する意思決定	2.69	0.59
9	痛み	2.53	0.81	8	心理社会的適応	2.65	0.65	8	緩和ケアに関する意思決定	2.74	0.57	9	痛み	2.68	0.57
9	倦怠感	2.53	0.81	8	希望	2.65	0.65	8	痛み	2.74	0.59	10	息切れ／呼吸困難	2.68	0.55
9	末梢神経障害	2.53	0.81	8	症状マネジメント	2.65	0.65	11	セルフマネジメント／セルフケア	2.72	0.51	10	QOL	2.68	0.55
9	治療選択に関する意思決定	2.53	0.81	8	外来看護	2.65	0.65	11	生活の再構築／生活の調整	2.72	0.51	12	多職種連携	2.65	0.59
9	セルフマネジメント／セルフケア	2.53	0.81	8	痛み	2.65	0.69	13	QOL	2.71	0.57	13	倦怠感	2.64	0.58
9	生活の再構築／生活の調整	2.53	0.81	8	アドバンスケアプランニング	2.65	0.69	14	倦怠感	2.70	0.57	14	外来看護	2.63	0.62
9	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.53	0.81	15	息切れ／呼吸困難	2.63	0.76	14	多職種連携	2.70	0.59	15	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.62	0.60
9	心理社会的適応	2.53	0.88	16	看護師のコミュニケーション	2.60	0.62	16	外来看護	2.69	0.60	15	コミュニケーション	2.62	0.63
17	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	2.47	0.81	16	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.60	0.66	17	コミュニケーション	2.69	0.56	15	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.62	0.63
17	緩和ケアに関する意思決定	2.47	0.81	16	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.60	0.66	18	家族ケア(家族の身体・心理・社会的ケア)	2.68	0.58	18	生活の再構築／生活の調整	2.61	0.56
17	アドヒアランス	2.47	0.81	16	療養の場の移行に関する意思決定	2.60	0.73	19	息切れ／呼吸困難	2.67	0.64	19	心理社会的適応	2.61	0.61
17	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.47	0.81	20	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.58	0.67	20	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.67	0.58	19	在宅療養における介護負担・支援	2.61	0.61
17	子を持つがん患者	2.47	0.81	20	在宅療養における介護負担・支援	2.58	0.67	20	子を持つがん患者	2.67	0.59				
17	高齢がん患者	2.47	0.81	20	免疫関連有害事象	2.58	0.74								
17	認知症のあるがん患者	2.47	0.81	20	緩和ケアに関する意思決定	2.58	0.77								
17	外来看護	2.47	0.81												
17	嚥下困難 ・ 開口障害	2.47	0.88												
17	感染	2.47	0.88												
17	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2.47	0.88												

表 9　がん看護研究の重要課題（認定資格の有無別）

順位	認定資格あり（N=391）	平均値	SD	順位	認定資格なし（N=180）	平均値	SD
1	治療選択に関する意思決定	2.82	0.41	1	意思決定支援	2.77	0.53
2	意思決定支援	2.81	0.43	2	在宅療養を可能にするための支援	2.76	0.53
3	倫理的課題／倫理的判断	2.77	0.46	3	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.75	0.54
4	アドバンスケアプランニング	2.75	0.51	3	治療選択に関する意思決定	2.75	0.55
4	療養の場の移行に関する意思決定	2.75	0.49	5	倫理的課題／倫理的判断	2.73	0.53
4	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.75	0.47	6	療養の場の移行に関する意思決定	2.72	0.57
7	在宅療養を可能にするための支援	2.74	0.48	7	アドバンスケアプランニング	2.71	0.57
8	症状マネジメント	2.72	0.52	7	症状マネジメント	2.71	0.58
9	多職種連携	2.71	0.51	7	セルフマネジメント／セルフケア	2.71	0.59
9	QOL	2.71	0.54	10	生活の再構築／生活の調整	2.68	0.56
11	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.70	0.50	10	痛み	2.68	0.61
11	痛み	2.70	0.57	12	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.67	0.55
11	セルフマネジメント／セルフケア	2.70	0.49	12	緩和ケアに関する意思決定	2.67	0.57
11	外来看護	2.70	0.51	12	在宅療養における介護負担・支援	2.67	0.60
15	緩和ケアに関する意思決定	2.69	0.53	15	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.66	0.60
16	心理社会的適応	2.68	0.54	16	QOL	2.64	0.66
17	看護師のコミュニケーション	2.67	0.53	17	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.63	0.67
18	コミュニケーション	2.66	0.57	18	子を持つがん患者	2.62	0.62
18	家族のがんへの適応	2.66	0.54	19	情報共有・情報システム（ICT、テレナーシング、遠隔医療含む）	2.61	0.62
20	家族ケア(家族の身体・心理・社会的ケア)	2.65	0.55	19	外来看護	2.61	0.63
20	倦怠感	2.65	0.56	19	ソーシャルサポート	2.61	0.65
20	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.65	0.60				
20	子を持つがん患者	2.65	0.54				

表 10　がん看護実践の重要課題（認定資格の有無別）

順位	認定資格あり（N=391）	平均値	SD	順位	認定資格なし（N=180）	平均値	SD
1	意思決定支援	2.81	0.45	1	意思決定支援	2.78	0.53
1	治療選択に関する意思決定	2.81	0.48	2	在宅療養を可能にするための支援	2.76	0.52
3	アドバンスケアプランニング	2.77	0.53	3	治療選択に関する意思決定	2.73	0.57
4	在宅療養を可能にするための支援	2.76	0.50	3	療養の場の移行に関する意思決定	2.73	0.57
4	倫理的課題／倫理的判断	2.76	0.55	5	症状マネジメント	2.71	0.57
6	症状マネジメント	2.75	0.51	5	アドバンスケアプランニング	2.71	0.6
6	療養の場の移行に関する意思決定	2.75	0.51	7	倫理的課題／倫理的判断	2.7	0.6
8	セルフマネジメント／セルフケア	2.72	0.50	7	痛み	2.7	0.61
9	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.71	0.55	9	セルフマネジメント／セルフケア	2.67	0.6
10	QOL	2.7	0.54	9	緩和ケアに関する意思決定	2.67	0.63
10	痛み	2.7	0.59	11	がん看護実践の質向上のための看護師教育	2.66	0.59
10	緩和ケアに関する意思決定	2.7	0.59	11	在宅療養における介護負担・支援	2.66	0.6
13	看護師のコミュニケーション	2.69	0.59	11	生活の再構築／生活の調整	2.66	0.63
14	コミュニケーション	2.68	0.56	14	QOL	2.64	0.65
14	息切れ／呼吸困難	2.68	0.57	14	多職種連携	2.64	0.66
14	外来看護	2.68	0.59	16	在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム	2.63	0.62
17	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.67	0.57	16	倦怠感	2.63	0.65
17	多職種連携	2.67	0.58	16	息切れ／呼吸困難	2.63	0.72
19	倦怠感	2.66	0.57	19	小児、AYA 世代にあるがん患者	2.61	0.63
19	心理社会的適応	2.66	0.59	20	がんの親をもつ子どもの問題・対応	2.6	0.65
				20	外来看護	2.6	0.68
				20	生命維持治療（輸液、経管栄養、心肺蘇生等）の意思決定	2.6	0.69

表 11　がん患者の苦痛症状および看護師にとってマネジメント困難な症状　　N=571

順位	がん患者の苦痛症状	人数	割合	順位	看護師にとってマネジメント困難な症状	人数	割合
1 (1)	痛み	483	84.6%	1 (1)	倦怠感	311	54.5%
2 (2)	息切れ／呼吸困難	358	62.7%	2 (2)	末梢神経障害	197	34.5%
3 (3)	倦怠感	215	37.7%	3 (3)	息切れ／呼吸困難	175	30.7%
4 (4)	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	115	20.1%	4 (+)	がん悪液質	125	21.9%
5 (6)	嘔気・嘔吐	109	19.1%	5 (6)	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	107	18.7%
6 (5)	末梢神経障害	89	15.6%	6(11)	痛み	100	17.5%
7 (7)	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	67	11.7%	7 (4)	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	97	17.0%
8 (+)	がん悪液質	49	8.6%	8 (6)	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	90	15.8%
9 (8)	睡眠／覚醒障害	33	5.8%	9 (5)	せん妄	80	14.0%
10 (9)	せん妄	29	5.1%	10(10)	性機能障害	70	12.3%
11(10)	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	23	4.0%	11 (+)	免疫関連有害事象	39	6.8%
12(16)	リンパ浮腫	21	3.7%	12(16)	栄養状態の変化（体重減少／増加など）*1	35	6.1%
13(20)	栄養状態の変化（体重減少／増加など）*1	16	2.8%	13 (9)	晩期障害：生殖機能障害	32	5.6%
13(12)	下痢／便秘	16	2.8%	14(12)	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	29	5.1%
15(15)	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	14	2.5%	15(18)	リンパ浮腫	28	4.9%
16(22)	感染*2	13	2.3%	15 (8)	晩期障害：神経系の障害	28	4.9%
17(12)	口内乾燥／口内炎	12	2.1%	17(14)	嘔気・嘔吐	24	4.2%
18 (+)	免疫関連有害事象	9	1.6%	18(19)	出血／血栓症	22	3.9%
19(12)	嚥下困難 ・ 開口障害*3	8	1.4%	18(15)	睡眠／覚醒障害	22	3.9%
20(23)	出血／血栓症	7	1.2%	20(16)	嚥下困難 ・ 開口障害*3	18	3.2%
20(11)	晩期障害：神経系の障害	7	1.2%	21(19)	晩期障害：心血管系の障害	15	2.6%
22(19)	性機能障害	5	0.9%	22(21)	口内乾燥／口内炎	14	2.5%
23(21)	晩期障害：生殖機能障害	4	0.7%	23(13)	晩期障害：肺の障害	13	2.3%
24(23)	晩期障害：心血管系の障害	3	0.5%	24(21)	感染*2	12	2.1%
25 (+)	晩期障害：胃腸障害	2	0.4%	25(23)	下痢／便秘	10	1.8%
26(18)	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.2%	26(23)	ホットフラッシュ	9	1.6%
26(16)	晩期障害：肺の障害	1	0.2%	27(23)	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	4	0.7%
28(23)	ホットフラッシュ	0	0.0%	28 (+)	晩期障害：胃腸障害	3	0.5%

括弧内は前回調査時順位。(+)は今回調査での新規追加項目を示す。

前回：*1 体重減少／増加、*2 感染（B 型肝炎ウイルスに関するものも含む)、*3 嚥下困難

表 12　がん患者の苦痛症状（職場別）

順位	教育・研究機関（N=129）	人数	割合	順位	病院（がん専門病院、大学病院、一般病院、クリニック／診療所）（N=410）	人数	割合	順位	訪問看護ステーション（N=15）	人数	割合	順位	該当なし（N=17）	人数	割合
1	痛み	110	85.3%	1	痛み	349	85.1%	1	痛み	12	80.0%	1	痛み	12	70.6%
2	息切れ／呼吸困難	81	62.8%	2	息切れ／呼吸困難	257	62.7%	2	息切れ／呼吸困難	9	60.0%	2	息切れ／呼吸困難	11	64.7%
3	倦怠感	46	35.7%	3	倦怠感	157	38.3%	3	倦怠感	6	40.0%	3	倦怠感	6	35.3%
4	嘔気・嘔吐	30	23.3%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	83	20.2%	4	がん悪液質	5	33.3%	3	末梢神経障害	6	35.3%
5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	26	20.2%	5	嘔気・嘔吐	72	17.6%	5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	3	20.0%	5	嘔気・嘔吐	5	29.4%
6	末梢神経障害	16	12.4%	6	末梢神経障害	66	16.1%	6	嘔気・嘔吐	2	13.3%	6	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	3	17.6%
7	がん悪液質	13	10.1%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	57	13.9%	6	睡眠／覚醒障害	2	13.3%	7	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	2	11.8%
8	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	9	7.0%	8	がん悪液質	30	7.3%	6	リンパ浮腫	2	13.3%	7	晩期障害：胃腸障害	2	11.8%
9	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	8	6.2%	9	睡眠／覚醒障害	28	6.8%	9	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	1	6.7%	9	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	1	5.9%
10	下痢／便秘	7	5.4%	10	せん妄	25	6.1%	9	出血／血栓症	1	6.7%	9	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	1	5.9%
11	感染	6	4.7%	11	リンパ浮腫	16	3.9%	9	末梢神経障害	1	6.7%	9	がん悪液質	1	5.9%
12	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	5	3.9%	12	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	13	3.2%	9	せん妄	1	6.7%	9	晩期障害：神経系の障害	1	5.9%
13	口内乾燥／口内炎	4	3.1%	13	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	12	2.9%	13	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	13	口内乾燥／口内炎	0	0.0%
14	睡眠／覚醒障害	3	2.3%	14	下痢／便秘	9	2.2%	13	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	0	0.0%	13	嚥下困難・開口障害	0	0.0%
14	せん妄	3	2.3%	14	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	9	2.2%	13	嚥下困難・開口障害	0	0.0%	13	下痢／便秘	0	0.0%
14	リンパ浮腫	3	2.3%	16	口内乾燥／口内炎	8	2.0%	13	下痢／便秘	0	0.0%	13	感染	0	0.0%
14	晩期障害：生殖機能障害	3	2.3%	16	免疫関連有害事象	8	2.0%	13	感染	0	0.0%	13	出血／血栓症	0	0.0%
18	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	2	1.6%	18	嚥下困難・開口障害	7	1.7%	13	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	0	0.0%	13	性機能障害	0	0.0%
18	出血／血栓症	2	1.6%	18	感染	7	1.7%	13	性機能障害	0	0.0%	13	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	0	0.0%
18	晩期障害：神経系の障害	2	1.6%	20	性機能障害	5	1.2%	13	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	0	0.0%	13	睡眠／覚醒障害	0	0.0%
18	晩期障害：心血管系の障害	2	1.6%	21	出血／血栓症	4	1.0%	13	ホットフラッシュ	0	0.0%	13	せん妄	0	0.0%
22	嚥下困難・開口障害	1	0.8%	21	晩期障害：神経系の障害	4	1.0%	13	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	13	リンパ浮腫	0	0.0%
22	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.8%	23	晩期障害：心血管系の障害	1	0.2%	13	免疫関連有害事象	0	0.0%	13	ホットフラッシュ	0	0.0%
22	免疫関連有害事象	1	0.8%	23	晩期障害：肺の障害	1	0.2%	13	晩期障害：神経系の障害	0	0.0%	13	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%
25	性機能障害	0	0.0%	23	晩期障害：生殖機能障害	1	0.2%	13	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	13	免疫関連有害事象	0	0.0%
25	ホットフラッシュ	0	0.0%	26	ホットフラッシュ	0	0.0%	13	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	13	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%
25	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	13	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	13	晩期障害：肺の障害	0	0.0%
25	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	26	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	13	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	13	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%

表 13　看護師にとってマネジメント困難な症状（職場別）

順位	教育・研究機関（N=129）	人数	割合	順位	病院（がん専門病院、大学病院、一般病院、クリニック／診療所）（N=410）	人数	割合	順位	訪問看護ステーション（N=15）	人数	割合	順位	該当なし（N=17）	人数	割合
1	倦怠感	74	57.4%	1	倦怠感	223	54.4%	1	痛み	7	46.7%	1	息切れ／呼吸困難	11	64.7%
2	息切れ／呼吸困難	51	39.5%	2	末梢神経障害	148	36.1%	1	息切れ／呼吸困難	7	46.7%	2	倦怠感	8	47.1%
3	末梢神経障害	41	31.8%	3	息切れ／呼吸困難	106	25.9%	3	倦怠感	6	40.0%	3	末梢神経障害	5	29.4%
4	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	28	21.7%	4	がん悪液質	100	24.4%	4	末梢神経障害	3	20.0%	4	痛み	4	23.5%
5	痛み	24	18.6%	5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	79	19.3%	4	睡眠／覚醒障害	3	20.0%	4	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	4	23.5%
6	がん悪液質	21	16.3%	6	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	76	18.5%	4	せん妄	3	20.0%	6	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	2	11.8%
7	せん妄	16	12.4%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	75	18.3%	7	嘔気・嘔吐	2	13.3%	6	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	2	11.8%
8	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	14	10.9%	8	痛み	65	15.9%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	2	13.3%	6	せん妄	2	11.8%
9	免疫関連有害事象	13	10.1%	9	性機能障害	59	14.4%	7	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2	13.3%	6	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2	11.8%
10	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	12	9.3%	9	せん妄	59	14.4%	7	リンパ浮腫	2	13.3%	6	がん悪液質	2	11.8%
11	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	11	8.5%	11	免疫関連有害事象	24	5.9%	7	がん悪液質	2	13.3%	11	口内乾燥／口内炎	1	5.9%
12	性機能障害	10	7.8%	12	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	22	5.4%	12	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	1	6.7%	11	嘔気・嘔吐	1	5.9%
12	晩期障害：生殖機能障害	10	7.8%	12	リンパ浮腫	22	5.4%	12	下痢／便秘	1	6.7%	11	嚥下困難・開口障害	1	5.9%
14	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	9	7.0%	12	晩期障害：生殖機能障害	22	5.4%	12	感染	1	6.7%	11	出血／血栓症	1	5.9%
15	下痢／便秘	6	4.7%	15	晩期障害：神経系の障害	21	5.1%	12	出血／血栓症	1	6.7%	11	性機能障害	1	5.9%
15	出血／血栓症	6	4.7%	16	嘔気・嘔吐	19	4.6%	12	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	1	6.7%	11	リンパ浮腫	1	5.9%
15	晩期障害：神経系の障害	6	4.7%	17	嚥下困難・開口障害	16	3.9%	12	免疫関連有害事象	1	6.7%	11	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	5.9%
15	晩期障害：心血管系の障害	6	4.7%	17	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	16	3.9%	18	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	11	免疫関連有害事象	1	5.9%
19	感染	5	3.9%	19	出血／血栓症	14	3.4%	18	嚥下困難・開口障害	0	0.0%	11	晩期障害：神経系の障害	1	5.9%
19	睡眠／覚醒障害	5	3.9%	19	睡眠／覚醒障害	14	3.4%	18	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	0	0.0%	20	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	0	0.0%
21	口内乾燥／口内炎	4	3.1%	21	口内乾燥／口内炎	9	2.2%	18	性機能障害	0	0.0%	20	下痢／便秘	0	0.0%
21	晩期障害：肺の障害	4	3.1%	21	晩期障害：心血管系の障害	9	2.2%	18	ホットフラッシュ	0	0.0%	20	感染	0	0.0%
23	リンパ浮腫	3	2.3%	21	晩期障害：肺の障害	9	2.2%	18	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	20	睡眠／覚醒障害	0	0.0%
23	ホットフラッシュ	3	2.3%	24	感染	6	1.5%	18	晩期障害：神経系の障害	0	0.0%	20	ホットフラッシュ	0	0.0%
25	嘔気・嘔吐	2	1.6%	24	ホットフラッシュ	6	1.5%	18	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	20	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%
26	嚥下困難・開口障害	1	0.8%	26	下痢／便秘	3	0.7%	18	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	20	晩期障害：肺の障害	0	0.0%
26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.8%	27	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	2	0.5%	18	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	20	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%
26	晩期障害：胃腸障害	1	0.8%	27	晩期障害：胃腸障害	2	0.5%	18	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	20	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%

表 14　がん患者の苦痛症状（教育背景別）

順位	博士後期課程修了（N=85）	人数	割合	順位	博士前期課程・修士課程修了（N=236）	人数	割合	順位	大学卒業（N=49）	人数	割合	順位	短期大学卒業（N=38）	人数	割合	順位	専門学校卒業（N=163）	人数	割合
1	痛み	71	83.5%	1	痛み	193	81.8%	1	痛み	42	85.7%	1	痛み	36	94.7%	1	痛み	141	86.5%
2	息切れ／呼吸困難	50	58.8%	2	息切れ／呼吸困難	151	64.0%	2	息切れ／呼吸困難	26	53.1%	2	息切れ／呼吸困難	25	65.8%	2	息切れ／呼吸困難	106	65.0%
3	倦怠感	32	37.6%	3	倦怠感	91	38.6%	3	嘔気・嘔吐	18	36.7%	3	倦怠感	17	44.7%	3	倦怠感	62	38.0%
4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	18	21.2%	4	嘔気・嘔吐	44	18.6%	4	倦怠感	13	26.5%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	7	18.4%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	36	22.1%
5	末梢神経障害	13	15.3%	5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	41	17.4%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	13	26.5%	5	嘔気・嘔吐	5	13.2%	5	嘔気・嘔吐	32	19.6%
6	がん悪液質	11	12.9%	6	末梢神経障害	39	16.5%	6	末梢神経障害	6	12.2%	6	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	4	10.5%	6	末梢神経障害	27	16.6%
7	嘔気・嘔吐	10	11.8%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	27	11.4%	6	がん悪液質	6	12.2%	6	末梢神経障害	4	10.5%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	21	12.9%
7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	10	11.8%	8	がん悪液質	22	9.3%	8	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	5	10.2%	6	睡眠／覚醒障害	4	10.5%	8	睡眠／覚醒障害	10	6.1%
9	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	6	7.1%	9	せん妄	17	7.2%	9	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	4	8.2%	9	嚥下困難 ・ 開口障害	2	5.3%	8	がん悪液質	10	6.1%
10	睡眠／覚醒障害	5	5.9%	10	睡眠／覚醒障害	12	5.1%	10	下痢／便秘	2	4.1%	9	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	2	5.3%	10	下痢／便秘	7	4.3%
11	口内乾燥／口内炎	4	4.7%	11	リンパ浮腫	11	4.7%	10	感染	2	4.1%	9	感染	2	5.3%	11	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	6	3.7%
11	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	4	4.7%	12	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	10	4.2%	10	睡眠／覚醒障害	2	4.1%	9	リンパ浮腫	2	5.3%	11	せん妄	6	3.7%
11	せん妄	4	4.7%	13	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	7	3.0%	13	口内乾燥／口内炎	1	2.0%	13	せん妄	1	2.6%	11	リンパ浮腫	6	3.7%
14	下痢／便秘	3	3.5%	14	出血／血栓症	6	2.5%	13	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	1	2.0%	13	免疫関連有害事象	1	2.6%	14	口内乾燥／口内炎	3	1.8%
14	感染	3	3.5%	15	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	5	2.1%	13	せん妄	1	2.0%	13	晩期障害：神経系の障害	1	2.6%	14	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	3	1.8%
16	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	2	2.4%	15	免疫関連有害事象	5	2.1%	13	リンパ浮腫	1	2.0%	13	晩期障害：生殖機能障害	1	2.6%	14	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	3	1.8%
16	晩期障害：生殖機能障害	2	2.4%	17	口内乾燥／口内炎	4	1.7%	13	免疫関連有害事象	1	2.0%	17	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	17	感染	2	1.2%
18	嚥下困難 ・ 開口障害	1	1.2%	17	嚥下困難 ・ 開口障害	4	1.7%	13	晩期障害：神経系の障害	1	2.0%	17	下痢／便秘	0	0.0%	17	免疫関連有害事象	2	1.2%
18	リンパ浮腫	1	1.2%	17	下痢／便秘	4	1.7%	13	晩期障害：胃腸障害	1	2.0%	17	出血／血栓症	0	0.0%	17	晩期障害：神経系の障害	2	1.2%
18	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	1.2%	17	感染	4	1.7%	20	嚥下困難 ・ 開口障害	0	0.0%	17	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	0	0.0%	20	嚥下困難 ・ 開口障害	1	0.6%
18	晩期障害：神経系の障害	1	1.2%	17	性機能障害	4	1.7%	20	出血／血栓症	0	0.0%	17	性機能障害	0	0.0%	20	出血／血栓症	1	0.6%
22	出血／血栓症	0	0.0%	22	晩期障害：心血管系の障害	3	1.3%	20	性機能障害	0	0.0%	17	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	0	0.0%	20	性機能障害	1	0.6%
22	性機能障害	0	0.0%	23	晩期障害：神経系の障害	2	0.8%	20	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	0	0.0%	17	ホットフラッシュ	0	0.0%	20	晩期障害：胃腸障害	1	0.6%
22	ホットフラッシュ	0	0.0%	24	晩期障害：肺の障害	1	0.4%	20	ホットフラッシュ	0	0.0%	17	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	24	ホットフラッシュ	0	0.0%
22	免疫関連有害事象	0	0.0%	24	晩期障害：生殖機能障害	1	0.4%	20	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	17	がん悪液質	0	0.0%	24	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%
22	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	26	ホットフラッシュ	0	0.0%	20	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	17	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	24	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%
22	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	20	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	17	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	24	晩期障害：肺の障害	0	0.0%
22	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	26	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	20	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	17	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	24	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%

表 15　看護師にとってマネジメント困難な症状（教育背景別）

順位	博士後期課程修了（N=85）	人数	割合	順位	博士前期課程・修士課程修了（N=236）	人数	割合	順位	大学卒業（N=49）	人数	割合	順位	短期大学卒業（N=38）	人数	割合	順位	専門学校卒業（N=163）	人数	割合
1	倦怠感	46	54.1%	1	倦怠感	132	55.9%	1	倦怠感	26	53.1%	1	倦怠感	24	63.2%	1	倦怠感	83	50.9%
2	末梢神経障害	33	38.8%	2	末梢神経障害	81	34.3%	2	息切れ／呼吸困難	21	42.9%	2	息切れ／呼吸困難	10	26.3%	2	末梢神経障害	57	35.0%
3	息切れ／呼吸困難	31	36.5%	3	息切れ／呼吸困難	75	31.8%	3	末梢神経障害	16	32.7%	2	末梢神経障害	10	26.3%	3	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	42	25.8%
4	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	19	22.4%	4	がん悪液質	54	22.9%	4	痛み	11	22.4%	4	痛み	9	23.7%	4	息切れ／呼吸困難	38	23.3%
4	がん悪液質	19	22.4%	5	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	47	19.9%	4	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	11	22.4%	5	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	8	21.1%	5	痛み	34	20.9%
6	痛み	15	17.6%	6	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	41	17.4%	4	がん悪液質	11	22.4%	5	がん悪液質	8	21.1%	6	がん悪液質	33	20.2%
7	せん妄	12	14.1%	7	せん妄	34	14.4%	7	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	9	18.4%	7	せん妄	7	18.4%	7	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	30	18.4%
8	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	11	12.9%	8	痛み	31	13.1%	8	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	6	12.2%	8	性機能障害	6	15.8%	8	性機能障害	26	16.0%
9	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	10	11.8%	9	性機能障害	29	12.3%	9	性機能障害	5	10.2%	8	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	6	15.8%	9	せん妄	23	14.1%
10	皮膚障害(手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等)	8	9.4%	9	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	29	12.3%	10	せん妄	4	8.2%	10	認知機能障害（ケモブレイン等を含む）	5	13.2%	10	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	20	12.3%
10	免疫関連有害事象	8	9.4%	11	リンパ浮腫	19	8.1%	11	嘔気・嘔吐	3	6.1%	11	睡眠／覚醒障害	3	7.9%	11	免疫関連有害事象	13	8.0%
12	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	6	7.1%	12	晩期障害：神経系の障害	15	6.4%	11	皮膚障害(手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等)	3	6.1%	11	晩期障害：神経系の障害	3	7.9%	11	晩期障害：生殖機能障害	13	8.0%
12	晩期障害：生殖機能障害	6	7.1%	13	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	14	5.9%	11	免疫関連有害事象	3	6.1%	13	嚥下困難 ・ 開口障害	2	5.3%	13	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	11	6.7%
14	性機能障害	4	4.7%	13	出血／血栓症	14	5.9%	14	口内乾燥／口内炎	2	4.1%	13	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	2	5.3%	14	嘔気・嘔吐	9	5.5%
15	下痢／便秘	3	3.5%	15	免疫関連有害事象	13	5.5%	14	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	2	4.1%	13	感染	2	5.3%	15	皮膚障害(手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等)	8	4.9%
15	出血／血栓症	3	3.5%	16	嘔気・嘔吐	11	4.7%	14	出血／血栓症	2	4.1%	13	リンパ浮腫	2	5.3%	15	睡眠／覚醒障害	8	4.9%
15	睡眠／覚醒障害	3	3.5%	16	晩期障害：生殖機能障害	11	4.7%	14	リンパ浮腫	2	4.1%	13	免疫関連有害事象	2	5.3%	17	嚥下困難 ・ 開口障害	7	4.3%
15	晩期障害：神経系の障害	3	3.5%	18	皮膚障害(手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等)	10	4.2%	14	晩期障害：神経系の障害	2	4.1%	13	晩期障害：肺の障害	2	5.3%	18	口内乾燥／口内炎	5	3.1%
15	晩期障害：心血管系の障害	3	3.5%	19	晩期障害：心血管系の障害	9	3.8%	14	晩期障害：生殖機能障害	2	4.1%	19	嘔気・嘔吐	1	2.6%	18	リンパ浮腫	5	3.1%
15	晩期障害：肺の障害	3	3.5%	20	嚥下困難 ・ 開口障害	7	3.0%	20	下痢／便秘	1	2.0%	20	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	18	晩期障害：神経系の障害	5	3.1%
21	口内乾燥／口内炎	2	2.4%	20	睡眠／覚醒障害	7	3.0%	20	感染	1	2.0%	20	下痢／便秘	0	0.0%	21	出血／血栓症	3	1.8%
21	嚥下困難 ・ 開口障害	2	2.4%	22	口内乾燥／口内炎	5	2.1%	20	睡眠／覚醒障害	1	2.0%	20	出血／血栓症	0	0.0%	21	ホットフラッシュ	3	1.8%
21	感染	2	2.4%	22	下痢／便秘	5	2.1%	20	ホットフラッシュ	1	2.0%	20	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	0	0.0%	21	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	3	1.8%
21	ホットフラッシュ	2	2.4%	22	感染	5	2.1%	20	晩期障害：肺の障害	1	2.0%	20	ホットフラッシュ	0	0.0%	21	晩期障害：心血管系の障害	3	1.8%
25	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	1.2%	25	晩期障害：肺の障害	4	1.7%	20	晩期障害：胃腸障害	1	2.0%	20	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	21	晩期障害：肺の障害	3	1.8%
26	嘔気・嘔吐	0	0.0%	26	ホットフラッシュ	3	1.3%	26	嚥下困難 ・ 開口障害	0	0.0%	20	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	26	感染	2	1.2%
26	リンパ浮腫	0	0.0%	27	晩期障害：胃腸障害	2	0.8%	26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	20	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	27	下痢／便秘	1	0.6%
26	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	28	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	26	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	20	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	28	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%

表 16　がん患者の苦痛症状（がん看護経験年数別）

順位	5 年未満（N=15）	人数	割合	順位	5 年以上 10 年未満（N=40）	人数	割合	順位	10 年以上 20 年未満（N=239）	人数	割合	順位	20 年以上（N=277）	人数	割合
1	痛み	13	86.7%	1	痛み	34	85.0%	1	痛み	207	86.6%	1	痛み	229	82.7%
2	倦怠感	9	60.0%	2	息切れ／呼吸困難	23	57.5%	2	息切れ／呼吸困難	157	65.7%	2	息切れ／呼吸困難	172	62.1%
3	息切れ／呼吸困難	6	40.0%	3	嘔気・嘔吐	14	35.0%	3	倦怠感	85	35.6%	3	倦怠感	109	39.4%
4	嘔気・嘔吐	3	20.0%	4	倦怠感	12	30.0%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	50	20.9%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	52	18.8%
4	末梢神経障害	3	20.0%	5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	10	25.0%	5	嘔気・嘔吐	43	18.0%	5	嘔気・嘔吐	49	17.7%
4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	3	20.0%	6	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	5	12.5%	6	末梢神経障害	35	14.6%	6	末梢神経障害	46	16.6%
7	口内乾燥／口内炎	1	6.7%	6	末梢神経障害	5	12.5%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	30	12.6%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	32	11.6%
7	嚥下困難・開口障害	1	6.7%	6	がん悪液質	5	12.5%	8	がん悪液質	19	7.9%	8	がん悪液質	24	8.7%
7	下痢／便秘	1	6.7%	9	下痢／便秘	2	5.0%	9	睡眠／覚醒障害	14	5.9%	9	睡眠／覚醒障害	18	6.5%
7	リンパ浮腫	1	6.7%	9	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着, 掻痒症, 皮疹等)	2	5.0%	10	せん妄	12	5.0%	10	せん妄	16	5.8%
7	がん悪液質	1	6.7%	9	リンパ浮腫	2	5.0%	11	口内乾燥／口内炎	10	4.2%	11	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着, 掻痒症, 皮疹等)	14	5.1%
7	晩期障害：神経系の障害	1	6.7%	12	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	1	2.5%	12	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	9	3.8%	12	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	10	3.6%
13	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	0	0.0%	12	出血／血栓症	1	2.5%	12	感染	9	3.8%	12	リンパ浮腫	10	3.6%
13	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	0	0.0%	12	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	1	2.5%	14	リンパ浮腫	8	3.3%	14	下痢／便秘	9	3.2%
13	感染	0	0.0%	12	睡眠／覚醒障害	1	2.5%	15	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着, 掻痒症, 皮疹等)	7	2.9%	15	免疫関連有害事象	7	2.5%
13	出血／血栓症	0	0.0%	12	せん妄	1	2.5%	16	嚥下困難 ・ 開口障害	4	1.7%	16	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	6	2.2%
13	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着, 掻痒症, 皮疹等)	0	0.0%	12	免疫関連有害事象	1	2.5%	16	下痢／便秘	4	1.7%	17	出血／血栓症	5	1.8%
13	性機能障害	0	0.0%	18	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	18	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	3	1.3%	17	晩期障害：神経系の障害	5	1.8%
13	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	0	0.0%	18	嚥下困難 ・ 開口障害	0	0.0%	19	性機能障害	2	0.8%	19	感染	4	1.4%
13	睡眠／覚醒障害	0	0.0%	18	感染	0	0.0%	19	晩期障害：生殖機能障害	2	0.8%	20	嚥下困難 ・ 開口障害	3	1.1%
13	せん妄	0	0.0%	18	性機能障害	0	0.0%	21	出血／血栓症	1	0.4%	20	性機能障害	3	1.1%
13	ホットフラッシュ	0	0.0%	18	ホットフラッシュ	0	0.0%	21	免疫関連有害事象	1	0.4%	22	晩期障害：心血管系の障害	2	0.7%
13	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	18	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	21	晩期障害：神経系の障害	1	0.4%	22	晩期障害：生殖機能障害	2	0.7%
13	免疫関連有害事象	0	0.0%	18	晩期障害：神経系の障害	0	0.0%	21	晩期障害：心血管系の障害	1	0.4%	24	口内乾燥／口内炎	1	0.4%
13	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	18	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	21	晩期障害：肺の障害	1	0.4%	24	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.4%
13	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	18	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	21	晩期障害：胃腸障害	1	0.4%	24	晩期障害：胃腸障害	1	0.4%
13	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	18	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	27	ホットフラッシュ	0	0.0%	27	ホットフラッシュ	0	0.0%
13	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	18	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	27	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	27	晩期障害：肺の障害	0	0.0%

表 17　看護師にとってマネジメント困難な症状（がん看護経験年数別）

順位	5 年未満（N=15）	人数	割合	順位	5 年以上 10 年未満（N=40）	人数	割合	順位	10 年以上 20 年未満（N=239）	人数	割合	順位	20 年以上（N=277）	人数	割合
1	倦怠感	9	60.0%	1	倦怠感	17	42.5%	1	倦怠感	138	57.7%	1	倦怠感	147	53.1%
2	痛み	7	46.7%	1	息切れ／呼吸困難	17	42.5%	2	末梢神経障害	82	34.3%	2	末梢神経障害	97	35.0%
3	末梢神経障害	5	33.3%	3	末梢神経障害	13	32.5%	3	息切れ／呼吸困難	66	27.6%	3	息切れ／呼吸困難	88	31.8%
4	息切れ／呼吸困難	4	26.7%	4	免疫関連有害事象	9	22.5%	4	がん悪液質	53	22.2%	4	がん悪液質	60	21.7%
4	がん悪液質	4	26.7%	5	がん悪液質	8	20.0%	5	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	46	19.2%	5	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	54	19.5%
6	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	3	20.0%	6	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	7	17.5%	6	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	43	18.0%	6	痛み	50	18.1%
7	下痢／便秘	2	13.3%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	6	15.0%	7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	41	17.2%	7	せん妄	46	16.6%
7	性機能障害	2	13.3%	8	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	5	12.5%	8	痛み	39	16.3%	8	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	45	16.2%
7	せん妄	2	13.3%	8	性機能障害	5	12.5%	9	性機能障害	31	13.0%	9	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	42	15.2%
7	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	2	13.3%	10	痛み	4	10.0%	10	せん妄	28	11.7%	10	性機能障害	32	11.6%
7	免疫関連有害事象	2	13.3%	10	せん妄	4	10.0%	11	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	19	7.9%	11	晩期障害：生殖機能障害	19	6.9%
12	嘔気・嘔吐	1	6.7%	10	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	4	10.0%	12	免疫関連有害事象	15	6.3%	12	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着,掻痒症, 皮疹等)	18	6.5%
12	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	1	6.7%	13	嘔気・嘔吐	3	7.5%	13	リンパ浮腫	12	5.0%	12	晩期障害：神経系の障害	18	6.5%
12	睡眠／覚醒障害	1	6.7%	13	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着,掻痒症, 皮疹等)	3	7.5%	13	晩期障害：生殖機能障害	12	5.0%	14	嘔気・嘔吐	14	5.1%
15	口内乾燥／口内炎	0	0.0%	13	睡眠／覚醒障害	3	7.5%	15	嚥下困難 ・ 開口障害	10	4.2%	14	リンパ浮腫	14	5.1%
15	嚥下困難 ・ 開口障害	0	0.0%	16	口内乾燥／口内炎	2	5.0%	15	晩期障害：神経系の障害	10	4.2%	16	出血／血栓症	13	4.7%
15	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	0	0.0%	16	下痢／便秘	2	5.0%	17	出血／血栓症	8	3.3%	16	免疫関連有害事象	13	4.7%
15	感染	0	0.0%	16	リンパ浮腫	2	5.0%	17	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着,掻痒症, 皮疹等)	8	3.3%	18	栄養状態の変化(体重減少／増加など)	11	4.0%
15	出血／血栓症	0	0.0%	16	晩期障害：肺の障害	2	5.0%	17	晩期障害：心血管系の障害	8	3.3%	18	睡眠／覚醒障害	11	4.0%
15	皮膚障害(手足症候群, 色素沈着,掻痒症, 皮疹等)	0	0.0%	20	感染	1	2.5%	17	晩期障害：肺の障害	8	3.3%	20	嚥下困難 ・ 開口障害	8	2.9%
15	リンパ浮腫	0	0.0%	20	出血／血栓症	1	2.5%	21	口内乾燥／口内炎	7	2.9%	21	晩期障害：心血管系の障害	7	2.5%
15	ホットフラッシュ	0	0.0%	20	ホットフラッシュ	1	2.5%	21	感染	7	2.9%	22	口内乾燥／口内炎	5	1.8%
15	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	20	晩期障害：生殖機能障害	1	2.5%	21	睡眠／覚醒障害	7	2.9%	23	感染	4	1.4%
15	晩期障害：神経系の障害	0	0.0%	24	嚥下困難 ・ 開口障害	0	0.0%	24	嘔気・嘔吐	6	2.5%	24	下痢／便秘	3	1.1%
15	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	24	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	25	ホットフラッシュ	5	2.1%	24	ホットフラッシュ	3	1.1%
15	晩期障害：肺の障害	0	0.0%	24	晩期障害：神経系の障害	0	0.0%	26	下痢／便秘	3	1.3%	24	晩期障害：肺の障害	3	1.1%
15	晩期障害：生殖機能障害	0	0.0%	24	晩期障害：心血管系の障害	0	0.0%	27	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	2	0.8%	27	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	2	0.7%
15	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	24	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	28	晩期障害：胃腸障害	1	0.4%	27	晩期障害：胃腸障害	2	0.7%

表 18　がん患者の苦痛症状（認定資格の有無別）

順位	認定資格あり（N=391）	人数	割合	順位	認定資格なし（N=180）	人数	割合
1	痛み	330	84.4%	1	痛み	153	85.0%
2	息切れ／呼吸困難	244	62.4%	2	息切れ／呼吸困難	114	63.3%
3	倦怠感	150	38.4%	3	倦怠感	65	36.1%
4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	72	18.4%	4	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	43	23.9%
5	嘔気・嘔吐	70	17.9%	5	嘔気・嘔吐	39	21.7%
6	末梢神経障害	68	17.4%	6	末梢神経障害	21	11.7%
7	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	59	15.1%	7	がん悪液質	13	7.2%
8	がん悪液質	36	9.2%	8	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	12	6.7%
9	睡眠／覚醒障害	22	5.6%	9	睡眠／覚醒障害	11	6.1%
10	せん妄	19	4.9%	10	せん妄	10	5.6%
11	リンパ浮腫	16	4.1%	11	感染	9	5.0%
12	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	11	2.8%	12	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	8	4.4%
12	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	11	2.8%	12	下痢／便秘	8	4.4%
12	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	11	2.8%	14	口内乾燥／口内炎	5	2.8%
15	下痢／便秘	8	2.0%	14	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	5	2.8%
15	免疫関連有害事象	8	2.0%	14	リンパ浮腫	5	2.8%
17	口内乾燥／口内炎	7	1.8%	17	出血／血栓症	3	1.7%
18	嚥下困難 ・ 開口障害	6	1.5%	17	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	3	1.7%
18	晩期障害：神経系の障害	6	1.5%	19	嚥下困難 ・ 開口障害	2	1.1%
20	感染	4	1.0%	19	晩期障害：胃腸障害	2	1.1%
20	出血／血栓症	4	1.0%	21	性機能障害	1	0.6%
20	性機能障害	4	1.0%	21	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.6%
23	晩期障害：生殖機能障害	3	0.8%	21	免疫関連有害事象	1	0.6%
24	晩期障害：心血管系の障害	2	0.5%	21	晩期障害：神経系の障害	1	0.6%
25	晩期障害：肺の障害	1	0.3%	21	晩期障害：心血管系の障害	1	0.6%
26	ホットフラッシュ	0	0.0%	21	晩期障害：生殖機能障害	1	0.6%
26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	0	0.0%	27	ホットフラッシュ	0	0.0%
26	晩期障害：胃腸障害	0	0.0%	27	晩期障害：肺の障害	0	0.0%

表 19　看護師にとってマネジメント困難な症状（認定資格の有無別）

順位	認定資格あり（N=391）	人数	割合	順位	認定資格なし（N=180）	人数	割合
1	倦怠感	220	56.3%	1	倦怠感	91	50.6%
2	末梢神経障害	146	37.3%	2	息切れ／呼吸困難	63	35.0%
3	息切れ／呼吸困難	112	28.6%	3	末梢神経障害	51	28.3%
4	がん悪液質	92	23.5%	4	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	36	20.0%
5	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	73	18.7%	5	痛み	34	18.9%
6	認知機能障害(ケモブレイン等を含む)	71	18.2%	6	がん悪液質	33	18.3%
6	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	71	18.2%	7	せん妄	29	16.1%
8	痛み	66	16.9%	8	心理的苦悩（不安、抑うつ等）	26	14.4%
9	せん妄	51	13.0%	9	性機能障害	22	12.2%
10	性機能障害	48	12.3%	10	食欲不振／食欲の変化／味覚障害	17	9.4%
11	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	23	5.9%	11	免疫関連有害事象	16	8.9%
11	免疫関連有害事象	23	5.9%	12	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	14	7.8%
13	リンパ浮腫	22	5.6%	13	栄養状態の変化（体重減少／増加など）	12	6.7%
14	晩期障害：生殖機能障害	21	5.4%	14	睡眠／覚醒障害	11	6.1%
15	晩期障害：神経系の障害	20	5.1%	14	晩期障害：生殖機能障害	11	6.1%
16	嘔気・嘔吐	17	4.3%	16	口内乾燥／口内炎	8	4.4%
17	皮膚障害（手足症候群、色素沈着、掻痒症、皮疹等）	15	3.8%	16	下痢／便秘	8	4.4%
18	出血／血栓症	14	3.6%	16	出血／血栓症	8	4.4%
19	嚥下困難 ・ 開口障害	13	3.3%	16	晩期障害：神経系の障害	8	4.4%
20	睡眠／覚醒障害	11	2.8%	20	嘔気・嘔吐	7	3.9%
20	晩期障害：肺の障害	11	2.8%	20	感染	7	3.9%
22	晩期障害：心血管系の障害	9	2.3%	22	リンパ浮腫	6	3.3%
23	口内乾燥／口内炎	6	1.5%	22	晩期障害：心血管系の障害	6	3.3%
24	感染	5	1.3%	24	嚥下困難 ・ 開口障害	5	2.8%
24	ホットフラッシュ	5	1.3%	25	ホットフラッシュ	4	2.2%
26	下痢／便秘	2	0.5%	26	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	3	1.7%
26	晩期障害：胃腸障害	2	0.5%	27	晩期障害：肺の障害	2	1.1%
28	抗がん薬の血管外漏出に伴う皮膚反応	1	0.3%	28	晩期障害：胃腸障害	1	0.6%

表 20　その他の重要ながん看護研究の課題（自由記載）

領域	内容
3．心理社会的側面	
	がん患者の学業と治療の両立
4．意思決定	
	平均寿命の延長と意思決定支援
5．看護介入・ケア方法の開発および評価	
	アピアランスケア 多重がん患者への支援 基礎疾患（慢性心不全・糖尿病）のあるがん患者支援 がん患者のロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル予防 看護実践ガイドラインの開発 項目 58．生活の再構築／生活の調整 　　独居、身寄りのない患者への支援 　　アルコール飲用患者への関わり 　　自己中断した患者
6．長期サバイバーシップ	
	サバイバーへの継続支援システム構築
7．エンドオブライフケア	
	急性期病院での看取り がんサロンや緩和ケアデイサービス 終末期がん患者の排泄援助
9．一般人のヘルスプロモーション	
	項目 86．がんに関する啓発活動 　　在宅や包括医療の普及 　　一般人への ACP 普及
10．ヘルスケアシステム	
	がん看護と診療報酬 看護面での医療経済 保険システム タスクシフト 項目 90．在宅療養支援システム・地域包括ケアシステム 　　かかりつけ医とがん治療病院との地域医療連携
11．がん看護に関わる看護師	
	看護師へのサポート 　　専門看護師、特定看護師の役割拡大 　　がん経験看護師のケア 　　がん看護に携わる看護師へのケア 　　学会に参画できる仕組みづくり 　　緩和ケアに関わる看護師のモチベーションを落とさない取り組みと効果 項目 93．がん看護実践の質向上のための看護師教育 　　看護師の緩和ケアに関する教育 　　がん医療を担う人材育成の現状と課題 　　人間発達に関する看護師の理解と実践への活用

12．その他	
	webの利用 　　がん患者とSNS 　　eヘルスリテラシー 放射線治療に関連する看護 地域医療 　　在宅支援診療所の看護 　　療養の場によるケアの質の違い 　　がん医療の地域格差 希少がんに関する研究 がん治療とコロナ禍 本研究の調査方法について

※内容について、本調査の質問紙の項目の更に詳細な事象を回答した場合、内容の前に質問項目の番号を記載している

例：項目58．生活の再構築／生活の調整

独居、身寄りのない患者への支援

引用文献

1) 日本がん看護学会教育研究活動委員会. 日本におけるがん看護に関する研究の優先性について(1). 日本がん看護学会誌, 5, 22-23 (1991)
2) 小島操子, 濱口恵子, 手島恵, 他. 日本におけるがん看護に関する研究の優先性について(2). 日本がん看護学会誌, 6, 16-21 (1991)
3) 鈴木久美他. 日本におけるがん看護研究の優先性－2016 年日本がん看護学会会員による Web 調査－教育・研究活動委員会報告（平成 27～28 年度）, 日本がん看護学会誌, 31, 57-65 (2017)
4) Ropka ME, Guterbock T, Krebs L, et al. Year 2000 Oncology Nursing Society Research Priorities Survey. Oncology Nursing Forum, 29(3), 481-91 (2002)
5) Berger AM, Berry DL, Christopher KA, et al. Oncology Nursing Society year 2004 research priorities survey. Oncology Nursing Forum, 32(2), 281-90 (2005)
6) Doorenbos AZ, Berger AM, Brohard-Holbert C, et al. 2008 ONS Research Priorities Survey. Oncology Nursing Forum, 35(6), E100-07 (2008)
7) Von Ah D, Brown CG, Brown SJ, et al. Research agenda of the Oncology Nursing Society: 2019-2022. Oncology Nursing Forum, 46(6), 654-69 (2019)
8) 日本がん看護学会. 2020 年日本がん看護学会の課題と今後の発展性の方向性－将来構想に関する報告書－. 2021-1-10.
https://jscn.or.jp/outline/img/vision2020.pdf,(参照 2023-2-1)